

平成16年度に試行した「教員の総合的活動自己評価」に関する報告書

平成17年11月

国立大学法人高知大学評価本部

評価本部委員会名簿

本部長	横谷 邦彦	(医学部教授)
総務担当委員	本家 孝一	(医学部教授)
教育担当委員	菅野 光公	(大学教育創造センター教授)
研究担当委員	大島俊一郎	(黒潮圏海洋科学研究科助教授)
財務担当委員	櫻井 克年	(農学部教授)
医療担当委員	橋本 浩三	(医学部教授)
地域社会連携担当委員	吉尾 寛	(人文学部教授)
学外委員	宮村 憲章	(高知新聞論説委員)
学長推薦委員	西森 久米太郎	(高知大学監事)

陪席者

河本 朝光	理事(財務担当)・事務局長
大西 浩二	企画部長
結城 朝光	企画部評価情報課長

事務担当

吉村 民雄	企画部評価情報課長補佐
江口さゆみ	企画部評価情報課
野口 悟	企画部評価情報課

目次

1	はじめに	1
2	これまでの経緯	1
3	平成16年度の教員の総合的活動自己評価について	2
4	平成16年度の自己評価報告書、総括表、添付資料と次年度計画書の提出状況	3
4 - 1	「自己評価報告書」の提出状況	3
4 - 2	「自己評価報告書」と「総括表」の提出状況	4
4 - 3	「自己評価報告書」、「総括表」及び「添付資料」の提出状況	4
4 - 4	「次年度計画書」の提出状況	5
5	平成16年度の活動比率と自己評価点、次年度の活動計画の全学集計	5
5 - 1	活動比率	5
5 - 2	自己評価点	6
5 - 3	次年度の活動計画	7
6	総括表の点数化について	8
6 - 1	総括表の点数化の方法	8
6 - 2	総括表点数の全学集計	10
7	自己評価指数について	11
7 - 1	自己評価指数の考え方	11
7 - 2	自己評価指数の全学集計	11
8	評価本部による妥当性の検証	13
8 - 1	妥当性の検証方法	13
8 - 2	妥当性の検証結果	13
8 - 2 - 1	自己評価点の妥当性の検証（検証後評価点）	13
8 - 2 - 2	検証後評価指数	14
9	総括表点数の集計による学部等別活動状況	15
9 - 1	全学総活動の学部等別割合	15
9 - 2	教育活動の学部等別割合	16
9 - 2 - 1	入試関連の活動	17
9 - 2 - 2	講義等の活動	17

9 - 2 - 3	学位審査等の活動	18
9 - 2 - 4	その他の活動	19
9 - 3	研究活動の学部等別割合	19
9 - 3 - 1	論文関連の活動	19
9 - 3 - 2	学会関連の活動	20
9 - 3 - 3	外部資金獲得活動	21
9 - 4	社会貢献活動の学部等別割合	22
9 - 4 - 1	社会貢献活動（国内）	22
9 - 4 - 2	国際交流活動	22
9 - 5	大学運営活動の学部等別割合	23
9 - 6	診療活動	24
9 - 7	総括表の点数化について	24
10	意見の申し立て	25
11	次年度の本格実施に向けての改善すべき事項	25
12	おわりに	26
13	文末に掲載した図と表	27
図 - 2		28
表 - 6		30
表 - 7		32
表 - 16 - 1		33
表 - 16 - 2		34
表 - 16 - 3		35
表 - 16 - 4		35
表 - 16 - 5		36

本文中、印の付されている用語等の説明は、初出頁の枠外に記載。

1 はじめに

現在、大学は、少子高齢化社会の到来、国レベルの財政の危機、教育の国際化などの社会的変化を受けて、大学教育の質の保証、魅力ある大学院教育、研究の高度化、産官学連携の推進など多くの変革が求められている。それらに的確に対処するため、国立大学法人化後、学長の強力なリーダーシップによる迅速な大学改革が進められている。大学自らが時代の変化を的確に捉え、進むべき道を定め迅速に行動しなければならない時代が到来したといえる。そのためには、大学全体の現状を正しく認識することが第一歩である。平成16年度に試行した教員の総合的活動自己評価は、そのためのシステム作りの第一歩といえる。この試行には多くの教員の協力が得られた。評価本部では、これらのデータを集積して本学の現状を解析するとともに、これまで評価本部で議論してきたことを大学全体として共有できる形で残したいと考え、この報告書を作成した。

2 これまでの経緯

平成15年10月、(旧)高知大学と高知医科大学は統合して(新)高知大学(以下、高知大学という)となった。高知大学に国立大学法人化(平成16年4月)に備えての法人化実施本部が設置され、その委員会の一つとして評価専門委員会が置かれた(資料1-1)(資料は、資料編にまとめて記載した)

評価専門委員会では、文部科学省による(大学の)中期目標・中期計画に対する達成度評価、さらに認証機関による評価等の第三者評価に対応するための準備を見据えながら、当時置かれていた国立大学の現状、社会の要望等を分析することから始めなければならなかった。その議論の経過を、「法人化後の高知大学における評価について」[平成16年1月](資料2)、「高知大学における評価のグランドデザイン」[同年3月](資料3)及び「高知大学における評価の実施要領と高知大学基礎データ収集システムへの提言」[同年3月](資料4)にまとめて公表した。

その概要を簡潔にまとめると、第三者評価(第三者による組織評価)に対応するためには、学内の個人評価システムとその集積に基づく組織(部局)評価システムの構築が重要であるとの結論に達した。つまり、「内部評価を充実することにより、いかなる外部評価にも対応できる」と考えたのである。

そこで、平成16年4月の国立大学法人高知大学のスタートと共に新たに設置された

「評価ワーキンググループ」(資料1 - 2) さらに同年7月に設置された「評価本部」(資料1 - 3、1 - 4)において、本学における個人評価と組織評価システムの構築と実施方法について検討をすすめ、同年「教員の総合活動自己評価の実施要項」および「組織評価実施要項」を作成した(資料5、7)

これにより、平成16年度を施行期間として、実施要項に基づき、平成17年1～2月に教員の総合的活動自己評価と組織評価を試行実施した。同年5月末までには個々の教員及び学部等からの報告書を収集し、6月からデータの集積とその解析をおこなったところである。以下にその内容をまとめた。

3 平成16年度の教員の総合的活動自己評価について

平成16年度の教員の総合的活動自己評価は、[自己評価報告書、次年度計画書、添付資料、総括表]によって実施した(資料5)

自己評価報告書は、はじめに所属する学部等の教育・社会貢献・大学運営(以下、部局運営を含む)・診療活動(以下、活動分野という)における目的・目標を設定し、その目的・目標への一年間の活動を自己評価するものである。目的・目標の明確化により、今後の各学部等の個性化、さらに大学としての個性化が図れるように配慮した。

次に、教員1人ひとりが一年間を振り返り、活動分野における活動比率を自己申告する。さらに、各分野における自らの活動を、4つの「C」に基づいて自己評価するものである。

4つの「C」は、Chance(改革目標)、Challenge(計画)、Change(成果)、Create(次年度の改善目標)からなる。今回は初年度であるため、平成16年度のはじめに「改革目標」と「計画」を設定したと仮定した。次に、それに基づいた一年間の「成果」を自己評価し、「次年度の改善目標」を作成するという「改革のスパイラルシステム」である。

具体的には、過去一年間の活動比率を活動分野毎に自己申告し(トータル100%)、活動分野毎に4つのCに基づいて4段階評価するものである(A=4点、B=3点、C=2点、D=1点)。Aは「目標に十分到達している」、Bは「目標におおむね到達しているが、改善の余地もある」、Cは「目標にある程度到達しているが、改善の必要がある」、Dは「目標への到達が不十分であり、大幅な改善の必要がある」を表している。例えば、教育活動30%(A)、研究活動20%(A)、社会貢献活動30%(B)、大学運営活動20%(A)の場合、 $(30 \times 4) + (20 \times 4) + (30 \times 3) + (20 \times 4) = 370$ 点(400点満点中)となる。

【活動比率】

教員1人ひとりが一年間を振り返り、活動分野(教育、研究、社会貢献、大学運営、診療)における活動比率(トータル100%)を自己申告したものである(資料5-2参照)

この点数を自己評価点とした。

次年度計画書は、次年度の教員の「計画活動比率(%)」と、次年度の「2つのC:Chance(改革目標) Challenge(計画)」から成る。次年度末に、それら「2つのC」に対してのChange(成果)とCreate(次年度の改善目標)を作成するものである。平成17年度の本格実施にむけて、この計画の提出は欠くことの出来ない作業であった。

添付資料は、各教員の自己評価の基となった活動内容を記載するものである。各学部等の個性を尊重するために5学部(人文学部、教育学部、理学部、医学部、農学部)・1研究科(黒潮圏海洋科学研究科(以下、黒潮圏と略す))に対応する添付資料を作成した。上記以外に所属する教員には一番近い学部等の添付資料での作成を依頼した。この添付資料の記入項目は、今後完成される大学情報データベースの個人業績項目の基本となるものであり、現在、随時追加更新できるシステムを構築中である。

総括表は、添付資料に記載された活動の一覧表である。この総括表を用いて、教員活動の点数化を試みた(後述)。

4 平成16年度の自己評価報告書、総括表、添付資料と次年度計画書の提出状況

4-1 「自己評価報告書」の提出状況

全学の総教員数622名中569名が、自己評価報告書を提出した(提出率91%)。学部等別にみると、人文学部75%、教育学部94%、理学部92%、医学部92%、農学部100%、黒潮圏100%、学内共同教育研究施設等(以下、学共施設と略す)は100%であった(表-1)。

表-1 自己評価報告書の学部等別提出状況

	対象者	自己評価報告書	
	人	提出数(人)	提出率(%)
人文学部	84	63	75
教育学部	79	74	94
理学部	79	73	92
医学部	273	252	92
農学部	66	66	100
黒潮圏	16	16	100
学共施設	25	25	100
全学	622	569	91

【自己評価点】

過去一年間の教育・研究・社会貢献・大学運営・診療活動における教員の活動比率(トータル100%)を自己申告し、各活動分野における活動を4段階(A=4点、B=3点、C=2点、D=1点)に自己評価して自己評価点を算出するものである。例えば、教育活動30%(A)、研究活動20%(A)、社会貢献活動30%(B)、大学運営活20%(A)、診療活動0%の教員の自己評価点は、 $(30 \times 4) + (20 \times 4) + (30 \times 3) + (20 \times 4) = 370$ であり、400満点中370点の自己評価点となる。

なお、学共施設として、海洋コア総合研究センター（4名）海洋生物教育研究センター（3名）遺伝子実験施設（2名）地域共同研究センター（1名）生涯学習教育研究センター（2名）学術情報処理センター（3名）アドミッションセンター（1名）留学生センター（3名）大学教育創造センター（3名）保健管理センター（3名）の10施設が含まれる。

4 - 2 「自己評価報告書」と「総括表」の提出状況

全学の総教員数 622 名中 544 名が、「自己評価報告書」と「総括表」を共に提出した（提出率 87%）。学部等別にみると、人文学部 64%、教育学部 94%、理学部 90%、医学部 87%、農学部 100%、黒潮圏 100%、学共施設 100%であった（表 - 2）。

表 - 2 自己評価報告書と総括表の学部等別提出状況

	対象者	自己評価報告書と総括表	
	人	提出数(人)	提出率(%)
人文学部	84	54	64
教育学部	79	74	94
理学部	79	71	90
医学部	273	238	87
農学部	66	66	100
黒潮圏	16	16	100
学共施設	25	25	100
全学	622	544	87

4 - 3 「自己評価報告書」、「総括表」及び「添付資料」の提出状況

全学の総教員数 622 名中 525 名が、「自己評価報告書」、「総括表」及び「添付資料」を共に提出した（提出率 84%）。学部等別にみると、人文学部 64%、教育学部 92%、理学部 90%、医学部 82%、農学部 100%、黒潮圏 100%、学共施設 80%であった（表 - 3）。

表 - 3 自己評価報告書、総括表および添付資料の学部等別提出状況

	対象者	自己評価報告書、総括表及び添付資料	
	人	提出数(人)	提出率(%)
人文学部	84	54	64
教育学部	79	73	92
理学部	79	71	90
医学部	273	225	82
農学部	66	66	100
黒潮圏	16	16	100
学共施設	25	20	80
全学	622	525	84

4 - 4 次年度計画書の提出状況

次年度（平成17年度）計画書提出対象者となる582名中537名が、次年度計画書を提出した（提出率92%）。学部等別にみると、人文学部70%、教育学部100%、理学部92%、医学部95%、農学部100%、黒潮圏100%、学共施設92%であった（表-4）。

表-4 次年度計画書の学部等別提出状況

	対象者	次年度計画書	
	人	提出数(人)	提出率(%)
人文学部	79	55	70
教育学部	73	73	100
理学部	77	71	92
医学部	252	239	95
農学部	61	61	100
黒潮圏	16	16	100
学共施設	24	22	92
全学	582	537	92

5 平成16年度の活動比率と自己評価点、次年度の活動計画の全学集計

5 - 1 活動比率

自己評価報告書と総括表を共に提出した543名（1名は5年分の総括表記載のため除外）の活動比率を全学集計した。全学レベルの活動比率は、教育活動30.7%、研究活動29.8%、社会貢献活動13.1%、大学運営活動14.0%、診療活動12.4%であった（図-1、資料7-1、7-2）。

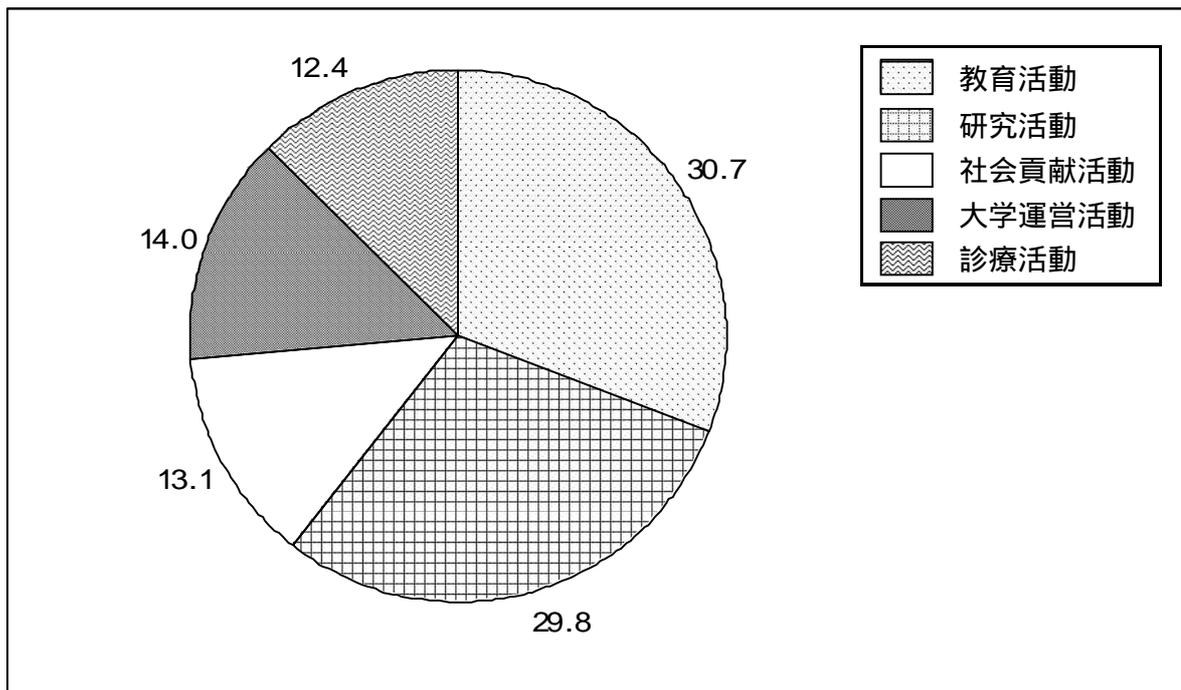


図 - 1 全学集計した活動比率 (%)

学部等別にみると、

人文学部 (教育 39%、研究 29%、社会貢献 15%、大学運営 17%)

教育学部 (教育 37%、研究 27%、社会貢献 16%、大学運営 20%)

理学部 (教育 36%、研究 37%、社会貢献 11%、大学運営 15%)

医学部 (教育 25%、研究 28%、社会貢献 11%、大学運営 9%、診療 28%)

〔診療無 (84人) 教育 38%、研究 38%、社会貢献 13%、大学運営 11%、診療 0%〕
 〔診療有 (153人) 教育 18%、研究 22%、社会貢献 10%、大学運営 7%、診療 44%〕

農学部 (教育 33%、研究 32%、社会貢献 17%、大学運営 18%)

黒潮圏 (教育 28%、研究 43%、社会貢献 14%、大学運営 15%)

学共施設 (教育 29%、研究 27%、社会貢献 18%、大学運営 24%、診療 2%)

であった。

学部等毎の職種別活動比率は、図 - 2 (資料 7 - 2 より作成) に示した (文末参照)。

5 - 2 自己評価点

自己評価報告書と総括表を共に提出した 543 名 (1 名は 5 年分の総括表記載のため除外) の自己評価点を集計した。その平均値は 323 点 (400 満点中) であった。学部等別にみると、人文学部 340 点、教育学部 331 点、理学部 320 点、医学部 31

6点、農学部325点、黒潮圏315点、学共施設340点であった(表-5)。

表-5 教員の自己評価点

	提出数(人)	自己評価点
人文学部	54	340.4
教育学部	74	330.8
理学部	71	320.4
医学部	237	316.2
農学部	66	324.6
黒潮圏	16	315.3
学共施設	25	339.6
全学	543	323.2

全教員の自己評価点を活動分野毎に集計すると、教育活動30%、研究活動29%、社会貢献活動14%、大学運営活動14%、診療活動13%であった(図-3)。この比率は、全学集計した活動比率(教育活動31%、研究活動30%、社会貢献活動13%、大学運営活動14%、診療活動12%)に近似した値であった。

そこで、教員の総活動の点数化(後述、8頁)には、全学集計した活動比率を用いた。

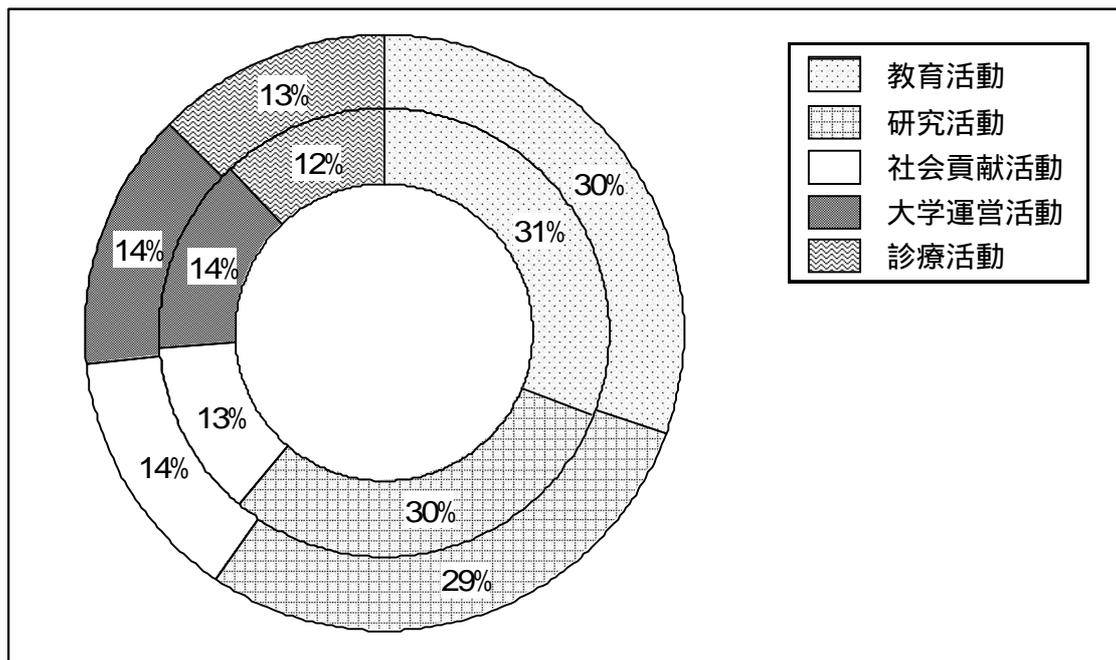


図-3 全学集計した自己評価点の活動割合(外側)と活動比率(内側)(%表示)

5-3 次年度の活動計画

提出対象者となる582名の教員のうち537名が次年度活動計画を提出した(92.3%)。全学集計した次年度の活動計画は、教育活動30.1%、研究活動31.2%、社会貢献活動13.8%、大学運営活動13.8%、診療活動11.1%であった(図-4)。次年度(平成

17年度)の活動計画は、今年度の活動比率に近似した割合であった。

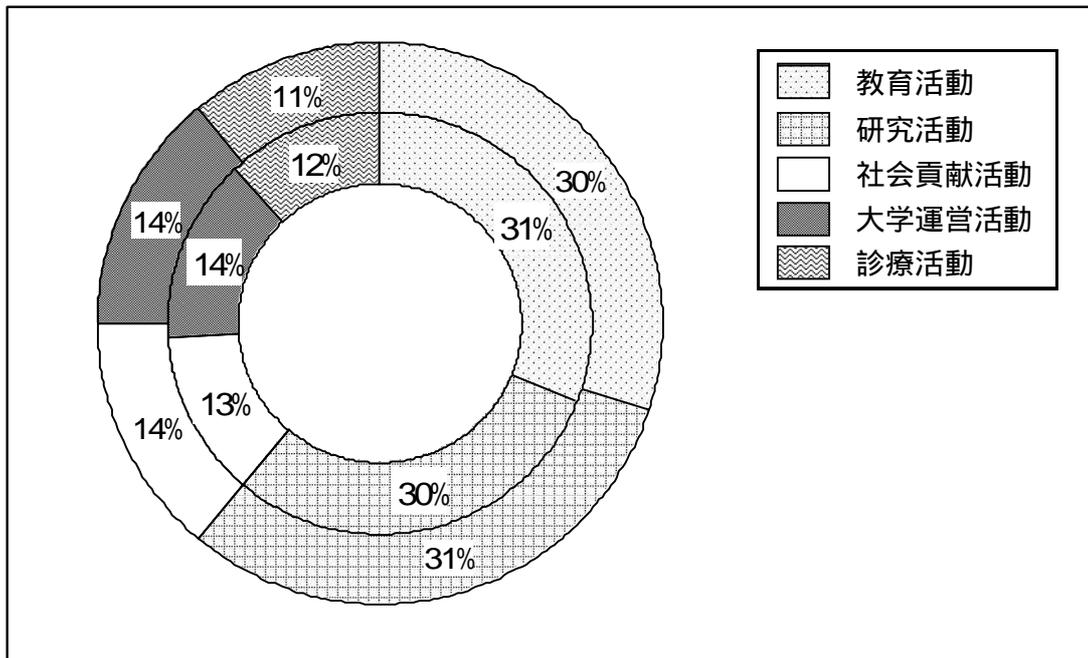


図 - 4 全学集計した次年度(平成17年度)活動計画(外側)と今年度活動比率(内側)(%表示)

学部等別にみると、

人文学部(教育 38%、研究 32%、社会貢献 14%、大学運営 17%)

教育学部(教育 35%、研究 30%、社会貢献 17%、大学運営 18%)

理学部(教育 36%、研究 36%、社会貢献 14%、大学運営 15%)

医学部(教育 24%、研究 29%、社会貢献 11%、大学運営 10%、診療 26%)

農学部(教育 33%、研究 35%、社会貢献 16%、大学運営 16%)

黒潮圏(教育 26%、研究 42%、社会貢献 16%、大学運営 15%)

学共施設(教育 29%、研究 27%、社会貢献 20%、大学運営 21%、診療 3%)

であった。

6 総括表の点数化について

6 - 1 総括表の点数化の方法

「添付書類」から作成した「総括表」の点数化を試みた。全教員(543名)の全仕事量を10万点とし、全学集計した活動比率(教育 30.7%、研究 29.8%、社会貢献 13.1%、大学運営 14.0%、診療 12.4%)に基づき配分した。それぞれの活動分野(大項目)に対する配点は、教育 30,700 点、研究 29,800 点、社会貢献 13,100 点、大学運営 14,000

点、診療12,400点とした(図-5)

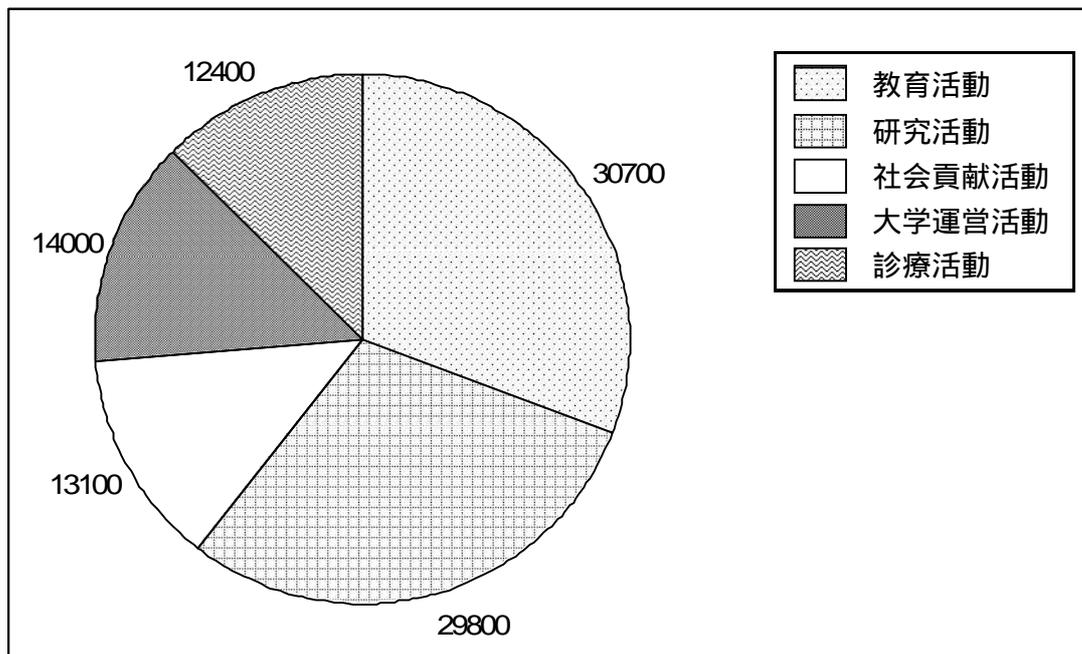


図-5 全学集計した活動比率による活動分野別配点(単位、点)

次に、大項目において、中項目の占める割合を大まかに定めた(表-6、文末に掲載)。各大項目における中項目の割合は以下のように定めた。教育活動(入試関連10%、講義51%、学位審査33%、その他5%)、研究活動(論文等70%、学会活動等13%、外部資金獲得18%)、社会貢献活動(国内56%、国外44%)等である。さらに各中項目に小項目を設けた。

最後に、小項目(入試関連における問題作成等)毎に素点を定め、各素点を(全学)総件数と乗じる(件数×素点)ことにより中項目の点数とし、さらに各中項目の合計を各大項目の総点数とした(例えば、教育活動では総点数30,700点となるよう素点を振り分けた)(表-6、文末に掲載)。

同じ活動分野内における各素点の適切さ、さらに異なる活動分野間の素点の適切さについては、講義1時間あたりに換算することによりその妥当性を検証した(表-7、文末に掲載)。例えば、問題出題=33.3講義時間(教育活動)、学会発表(国内)=4講義時間(研究活動)、産学官連携=31.3講義時間(社会貢献活動)等となった。

論文の素点については、学問分野の違いを考慮した。本学の「中期目標・中期計画」(研究に関する目標)において「論文数(理系教員は一人当たり年間1編以上、文系にあっては年間0.5編以上)」と明記されていることから、文系論文の素点は理系の2倍とした。また、欧文論文の素点は邦文の2倍にした。今回は、人文学部、教育学部、生涯学習教育研究センター、留学生センター、大学教育創造センターを文系とした。

6 - 2 総括表点数の全学集計

自己評価報告書と総括表を共に提出した543名の総括表を、一人ひとり素点の一覧表(表-7)に基づき点数化した(以下、総括表点数という)。総括表点数の全学平均値は184点であった。職別(全学)で見ると、教授240点、助教授169点、講師167点、助手126点であった(表-8)(人数2人以下のデータは削除)。

表-8 全学集計した総括表点数(職別)

	提出者数	総括表点数
全学	543	184.3
教授	205	239.9
助教授	157	168.5
講師	45	166.5
助手	134	125.5
外国人教師	2	-

学部等毎の総括表点数(平均値)は、人文学部159点、教育学部142点、理学部166点、医学部183点、農学部262点、黒潮圏216点、学共施設205点であった(表-9)。

表-9 全学集計した総括表点数(学部別)

	提出者数	総括表点数
人文学部	54	158.5
教育学部	74	141.6
理学部	71	165.5
医学部	237	183.4
農学部	66	261.5
黒潮圏	16	216.1
学共施設	25	204.6
全学	543	184.3

学部等毎の職別平均値で見ると、

人文学部 [教授 184 点(31 人)、助教授 133 点(19 人)]

教育学部 [教授 141 点(43 人)、助教授 142 点(29 人)]

理学部 [教授 218 点(34 人)、助教授 122 点(29 人)、助手 101 点(8 人)]

医学部 [教授 304 点(46 人)、助教授 205 点(37 人)、講師 189 点(34 人)、助手 130 点](119 人)

【総括表点数】

教員一人ひとりの総括表の点数化。各小項目の(件数×素点)を全て合計したものである(資料5-5、表-6参照)

農学部 [教授 343 点 (35 人) 助教授 179 点 (27 人) 講師 110 点 (4 人)]

黒潮圏 [教授 263 点 (8 人) 助教授 210 点 (5 人)]

学共施設 [教授 235 点 (8 人) 助教授 255 点 (11 人)]

であった。

7 自己評価指数*について

7 - 1 自己評価指数の考え方

個々の教員の自己評価点は、あくまで自己が定めた目標に対する達成度評価（絶対評価）である。従って、目標設定が低い場合には高い自己評価点になり、逆に高い場合には低い自己評価点となる可能性がある。そこで、「自己評価の厳しさ」を表す指標として「自己評価指数」を設定した [自己評価指数 = 総括表点数 / 自己評価点]、つまり、自己評価点は、自己評価 1 点に相当する客観的仕事量を示す。この指数を教員自身が同僚の値と比較することにより、自らが「自己評価の厳しさ」を判断するシステムとした。

例えば、総括表点数が同じく 100 点の場合でも、自己評価点が 400 点と 200 点の場合には、自己評価指数はそれぞれ、 $100/400=0.25$ 、 $100/200=0.5$ となる。従って、自己評価指数が高いほど、自ら厳しく自己評価しているといえる。

平成 17 年 7 月に、個々の教員宛に送付した「平成 16 年度試行的に行った教員の総合的活動自己評価に係る妥当性の検証結果及び総括表（活動量）点数化結果通知」により、各教員の自己評価点、総括表点数、自己評価指数を通知した（資料 6）。同時に全学集計した値の一覧表を添付した（資料 7 - 1）（資料 7 - 1 は、資料 7 - 2 を基に作成）。教員自らが、それぞれの値を全学平均値及び該当学部等の職別平均値と比較することにより（さらに経年的変化を捉えることにより）、自己評価能力を高めていくことが目的である。

7 - 2 自己評価指数の全学集計

自己評価指数の全学平均値は、0.570 であった。職別（全学）で見ると、教授 0.725、助教授 0.517、講師 0.538、助手 0.401 であった（表 - 10）。

【自己評価指数】

自己評価指数 = 総括表点数 / 自己評価点。つまり、自己評価 1 点に相当する客観的仕事量を示す。この指数を教員自身が同僚の値と比較することにより、「自己評価の厳しさ」を自分自身で判断するシステムとした。

表 - 10 全学集計した自己評価指数（職別）

	提出数	自己評価点	総括表点数	自己評価指数
全学	543	323.2	184.3	0.570
教授	205	330.7	239.9	0.725
助教授	157	325.8	168.5	0.517
講師	45	309.4	166.5	0.538
助手	134	312.6	125.5	0.401
外国人教師	2	-	-	-

学部等別の平均値は、人文学部 0.466、教育学部 0.428、理学部 0.517、医学部 0.580、農学部 0.806、黒潮圏 0.685、学共施設 0.602 であった（表 - 11）。

表 - 11 学部等別に集計した自己評価指数

	提出者数	自己評価点	総括表点数	自己評価指数
人文学部	54	340.4	158.5	0.466
教育学部	74	330.8	141.6	0.428
理学部	71	320.4	165.5	0.517
医学部	237	316.2	183.4	0.580
農学部	66	324.6	261.5	0.806
黒潮圏	16	315.3	216.1	0.685
学共施設	25	339.6	204.6	0.602
全学	543	323.2	184.3	0.570

学部等毎の職別平均値でみると、

人文学部 [教授 0.55 (31 人) 助教授 0.383 (19 人)]

教育学部 [教授 0.441 (43 人) 助教授 0.409 (29 人)]

理学部 [教授 0.674 (34 人) 助教授 0.382 (29 人) 助手 0.325 (8 人)]

医学部 [教授 0.908 (46 人) 助教授 0.655 (37 人) 講師 0.613 (34 人)
助手 0.415 (119 人)]

農学部 [教授 1.012 (35 人) 助教授 0.572 (27 人) 講師 0.389 (4 人)]

黒潮圏 [教授 0.841 (8 人) 助教授 0.663 (5 人)]

学共施設 [教授 0.659 (8 人) 助教授 0.778 (11 人)]

であった。

8 評価本部による妥当性の検証

8 - 1 妥当性の検証方法

今回の試行においては、評価本部で、教員の目的・目標に照らして自己評価点を検証した。その方法は、活動分野ごとに教員自らが行った4段階評価(A, B, C, D)の妥当性を、各教員の活動目的・目標、添付資料、総括表を参考にして、検証するものである。検証結果を4段階で表し[1- 自己評価を上回る成果である; 2- 自己評価に相応しい成果である; 3- 自己評価を下回る成果である; 4- 解析不能である(2ランク下げる)](資料6) 検証後の自己評価点を算出した(以下、検証後の自己評価点を「検証後評価点」という)。

例えば、自己評価が、教育活動(30%) (B=3)、研究活動(30%) (A=4)、社会貢献活動(30%) (B=3)、大学運営活動(10%) (B=3) [(30×3)+(30×4)+(30×3)+(10×3) = 330点]とする。評価本部による妥当性の検証の結果、教育活動の自己評価BがAと検証された場合には、(30×4)+(30×4)+(30×3)+(10×3) = 360の検証後評価点となる。

評価本部は少人数の委員により構成されているが、検証者は被検証者の所属学部等とは異なる人材配置(2人)となるように配慮した。また、その内容は担当者以外には閲覧できないシステムを採用した。つまり、各委員(委員長を含む)は、担当以外の個人データには触れ得ず、集計値のみの解析を行った。

8 - 2 妥当性の検証結果

8 - 2 - 1 自己評価点の妥当性の検証(検証後評価点)

提出教員543名の自己評価点の平均値は323.2点(400満点中)であり、検証後評価点の平均値は318.3点であった(表-12)。

表-12 自己評価点と検証後評価点(職階別)

	提出者数	評価点	
		自己評価	検証後
全学	543	323.2	318.3
教授	205	330.7	330.3
助教授	157	325.8	320.2
講師	45	309.4	312.3
助手	134	312.6	298.8
外国人教師	2	-	-

【検証後評価点】

各活動分野毎に教員自ら行った4段階評価(A, B, C, D)の妥当性を、被検証者の目標、添付資料(および総括表)を参考にして検証した。例えば、教育活動(30%) (B=3)、研究活動(30%) (A=4)、社会貢献活動(30%) (B=3)、大学運営活動(10%) (B=3) [(30×3) + (30×4) + (30×3) + (10×3) = 330点]の自己評価点で、検証により教育活動の評価BがAになった場合の検証後評価点は、(30×4) + (30×4) + (30×3) + (10×3) = 360となる。

学部等別の検証後評価点(平均値)は、表 - 1 3 に示した。これらの検証後評価点は、自己評価点とほぼ同じ値であった。

表 - 1 3 自己評価点と検証後評価点(学部別)

	提出者数	評価点	
		自己評価	検証後
人文学部	54	340.4	323.6
教育学部	74	330.8	330.2
理学部	71	320.4	304.5
医学部	237	316.2	312.5
農学部	66	324.6	326.8
黒潮圏	16	315.3	315.3
学共施設	25	339.6	344.0
全学	543	323.2	318.3

8 - 2 - 2 検証後評価指数

自己評価点の妥当性の検証から得られた「検証後評価点」を用いて「検証後評価指数」を算出した [検証後の評価指数 = 総括表点数 / 検証後評価点]

全学平均(543名)では、検証後評価点は318点(自己評価点は323点)であり、全学の総括表点数(平均値)184点から検証後評価指数を算出すると、 $184/318=0.58$ となった(自己評価指数 = $184/323=0.57$)。

職階別(平均値)にみると、教授 [検証後評価指数、0.73 ; 自己評価指数、0.73] 助教授 [検証後評価指数、0.53 ; 自己評価指数、0.52] 講師 [検証後評価指数、0.53 ; 自己評価指数、0.54] 助手 [検証後評価指数、0.42 ; 自己評価指数、0.40] であった(表 - 1 4)。学部等別の検証後評価指数も、自己評価指数とほぼ同じ値であった(表 - 1 5)。

表 - 1 4 検証後評価点と評価指数(職階別)

	提出者数	評価点		評価指数	
		自己評価	検証後	自己評価	検証後
全学	543	323.2	318.3	0.570	0.579
教授	205	330.7	330.3	0.725	0.726
助教授	157	325.8	320.2	0.517	0.526
講師	45	309.4	312.3	0.538	0.533
助手	134	312.6	298.8	0.401	0.420
外国人教師	2	-	-	-	-

【検証後評価指数】

自己評価点の妥当性の検証から得られた「検証後評価点」を用いて「検証後評価指数」を算出した [検証後の評価指数 = 総括表点数 / 検証後評価点]

表 - 15 検証後評価点と評価指数（学部別）

	提出者数	評価点		評価指数	
		自己評価	検証後	自己評価	検証後
人文学部	54	340.4	323.6	0.466	0.490
教育学部	74	330.8	330.2	0.428	0.429
理学部	71	320.4	304.5	0.517	0.543
医学部	237	316.2	312.5	0.580	0.587
農学部	66	324.6	326.8	0.806	0.800
黒潮圏	16	315.3	315.3	0.685	0.685
学共施設	25	339.6	344.0	0.602	0.595
全学	543	323.2	318.3	0.570	0.579

検証後評価指数は、（検証前の）自己評価指数と有為な差異は認められなかった。

9 総括表点数の集計による学部等別活動状況

平成17年2月から5月にかけて、組織評価報告書及び総括表をもとに、組織評価(資料8)を試みた。しかし、大学運営への貢献では学部等の努力を反映しないこともあるため、学部等自身の施策(入試改革、入試対策、受験者対策、学生による授業評価の普及率、教育改革・対策)等も組織評価に反映させようと試みた。しかし、これらの記載を実施要項に明確に指示していなかったこともあり、組織活動を評価報告書及び総括表にて評価することは困難であった。今後、組織評価は、大学評価・学位授与機構によって行われる認証評価に対応したものをも含めたものに改良していく必要がある。

そこで今回は、大学全体の活動像を把握するため、各教員の総括表点数を学部等毎に集計した。さらに、この集計をもとに、総括表点数の算出に用いた素点の妥当性を検証した。

9 - 1 全学総活動の学部等別割合

全学構成員(622人)の学部等別割合は、人文学部 13.5%、教育学部 12.7%、理学部 12.7%、医学部 43.9%、農学部 10.6%、黒潮圏 2.6%、学共施設 4.0%であった。自己評価書と総括表を共に提出した教員(543名)の学部等別割合は、人文学部 9.9%、教育学部 13.6%、理学部 13.1%、医学部 43.6%、農学部 12.2%、黒潮圏 2.9%、学共施設 4.6%

であった。

全ての活動分野における全学総点数(件数×素点の合計)を、学部等毎に集計した(表-16、文末参照)。総点数に占める各学部等の割合は、人文学部8.6%、教育学部10.5%、理学部11.7%、医学部43.5%、農学部17.3%、黒潮圏3.5%、学共施設5.1%であった(図-6)。

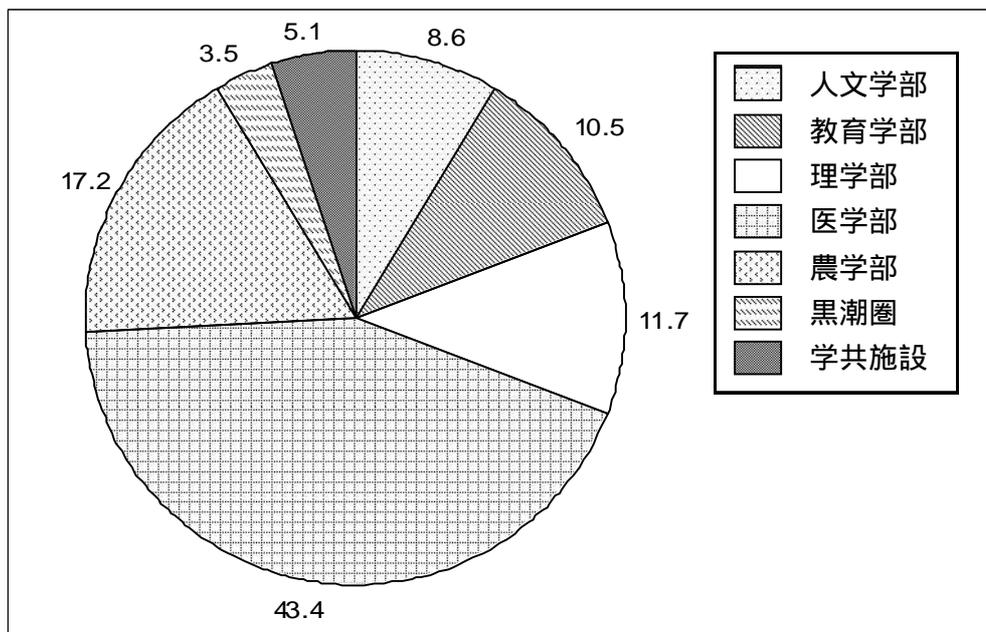


図-6 全学総活動の学部等別集計(%表示)

次に、各分野における学部等別割合を算出した。

9-2 教育活動の学部等別割合

教育活動項目は大きく4つの中項目(入試関連、講義、学位審査等、その他)に分類し、その配点割合は、入試関連(10.5%)、講義(51.0%)、学位審査等(33.1%)、その他(5.4%)とした(表-6、文末参照)。さらに、各中項目を小項目に分けた。(1)入試関連の小項目として、問題の出題の有無、採点の有無、面接の有無、試験分析・企画件数、受験生獲得対応の有無、その他、(2)講義項目の小項目として、共通教育、学部・大学院、他学部・他大学の講義時間数、(3)学位審査等の小項目として、修士・博士の学位審査(主査、副査)件数、学生指導(卒論、修論、博論)、(4)その他の小項目として、FD企画の有無と参加の有無、就職相談、留学生支援、クラブ顧問、その他、を含めた。

9 - 2 - 1 入試関連の活動

全学の入試関連点数に占める学部等別割合は、人文学部 13%、教育学部 21%、理学部 23%、医学部 16%、農学部 17%、黒潮圏 4%、学共施設 6%であった(図 - 7 ; 表 1 6 - 1、文末参照)

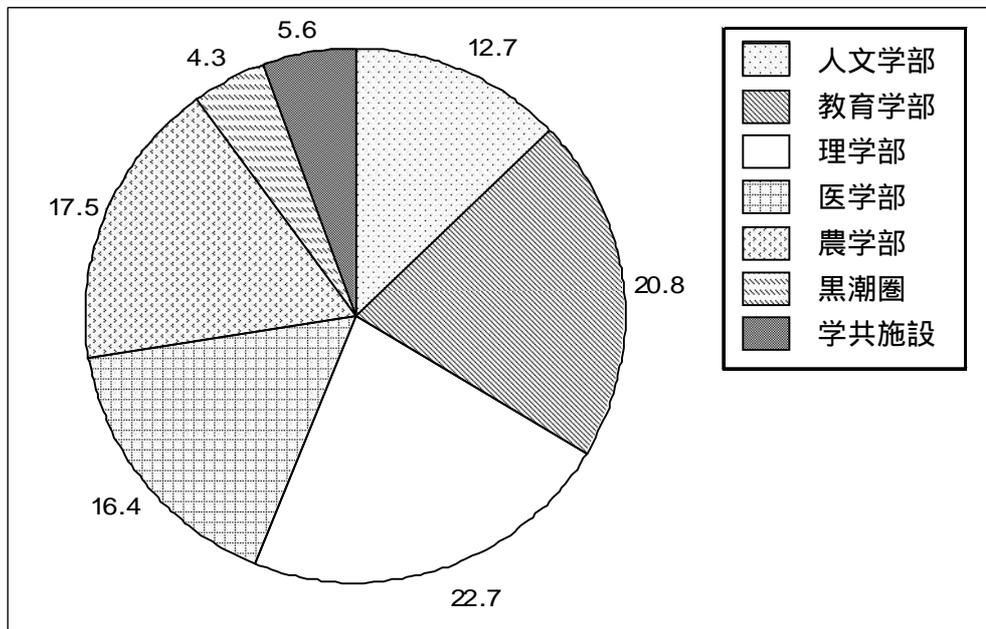


図 - 7 入試関連活動の学部等別割合 (%表示)

9 - 2 - 2 講義等の活動

全学集計した講義関連の総括表点数に占める各学部等の割合は、人文学部 12%、教育学部 18%、理学部 11%、医学部 26%、農学部 29%、黒潮圏 3%、学共施設 2%であった(図 - 8 ; 表 1 6 - 1、文末参照)

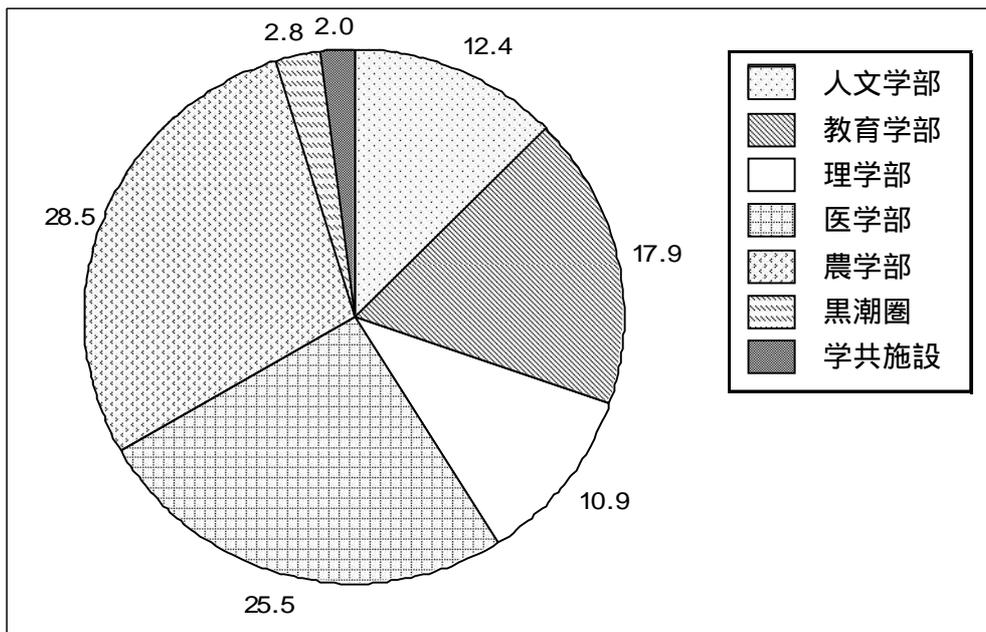


図 - 8 講義活動の学部等別割合 (%表示)

9 - 2 - 3 学位審査等の活動

全学における修士論文審査の主査は145件、副査は293件であった。博士論文審査の主査は53件、副査は139件であった。学生指導件数では、卒業論文991件であった。全学集計した学位審査(等)関連の総括表点数に占める各学部等の割合は、人文学部11%、教育学部13%、理学部25%、医学部12%、農学部31%、黒潮圏6%、学共施設3%であった(図-9;表16-1、文末参照)。

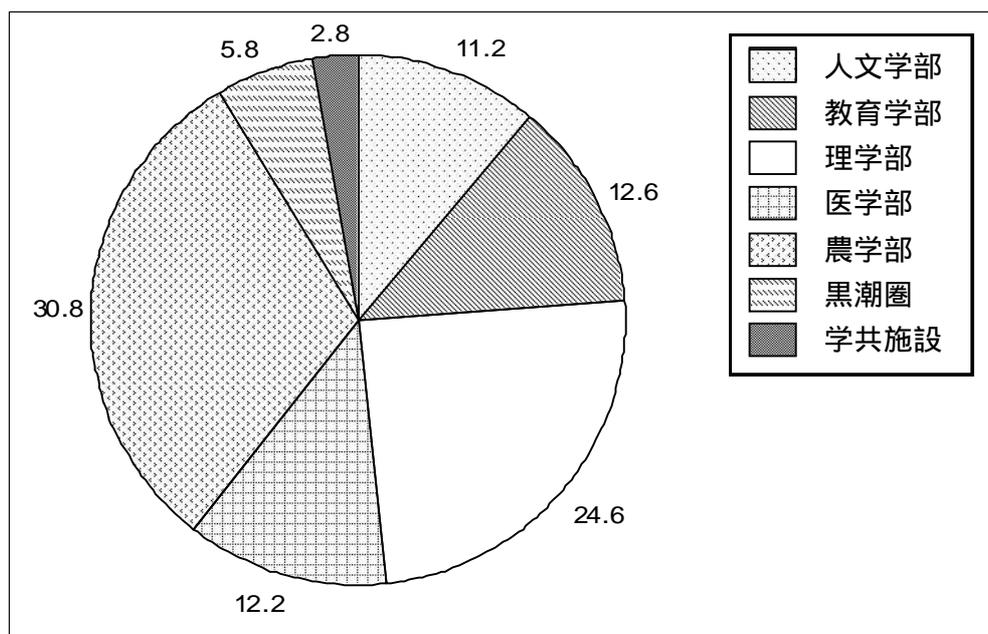


図 - 9 学位審査活動の学部等別割合 (%表示)

9 - 2 - 4 その他の活動

全学集計したその他の活動関連の総括表点数に占める各学部等の割合は、人文学部 13%、教育学部 13%、理学部 15%、医学部 24%、農学部 27%、黒潮圏 5%、学共施設 3%であった(図 - 10 ; 表 16 - 1、文末参照)

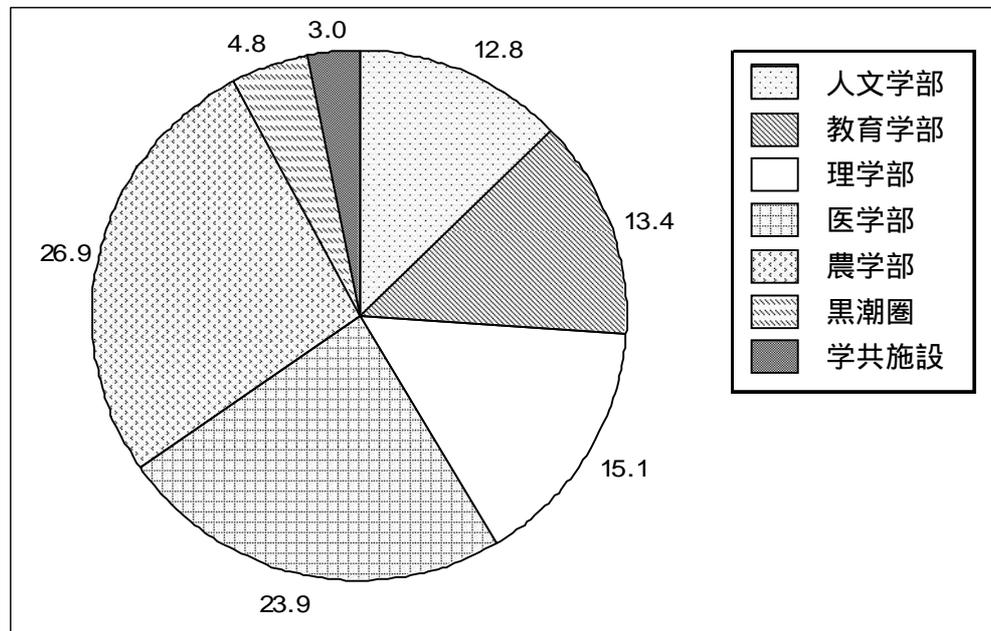


図 - 10 その他の活動における学部等別割合 (%表示)

9 - 3 研究活動の学部等別割合

研究活動項目は大きく3つの中項目(論文等、学会活動等、外部資金獲得)に分類し、その配点割合は、論文等(69%)、学会活動等(13%)、外部資金獲得(18%)である(表 - 6)。(1)論文業績の小項目として、著書、総説、原著論文、症例報告、その他の論文、(2)学会活動の小項目として、学会(国内、国外)への参加と発表及び司会、受賞、特許(出願、取得)、研究セミナー開催、その他、(3)外部資金の小項目として、科学研究費補助金(応募、採択、金額)、共同研究(金額)、受託・奨学寄附金(金額)、学長・学部長裁量経費(金額)、その他(金額)を含めた。

9 - 3 - 1 論文関連の活動

全学集計した論文関連の総括表点数に占める各学部等の割合は、人文学部 12%、教育学部 8%、理学部 10%、医学部 53%、農学部 10%、黒潮圏 3%、学共施設 4%であった(図 - 11 ; 表 16 - 2、文末参照)

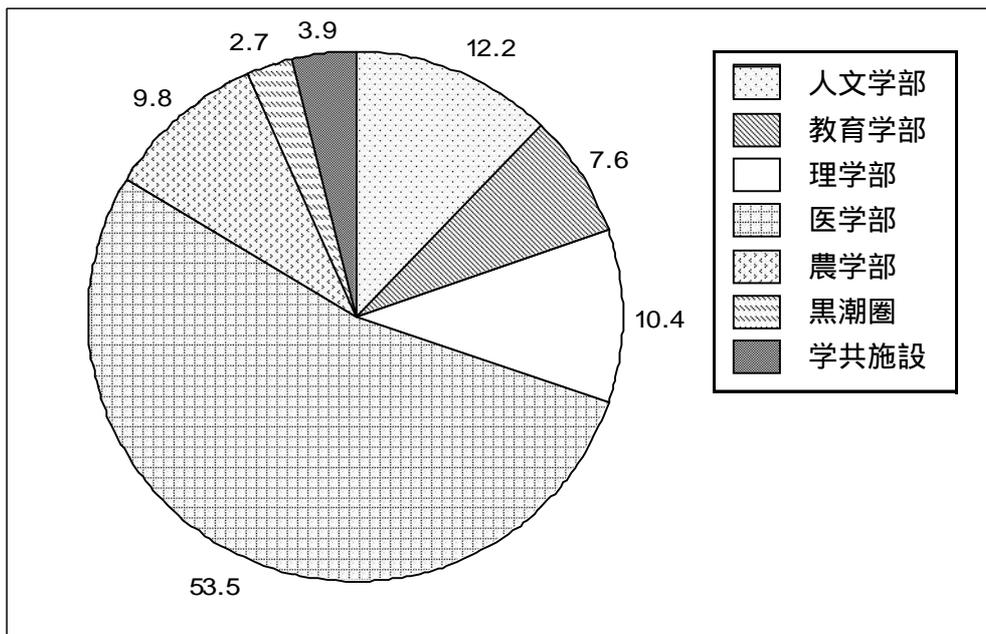


図 - 11 論文関連活動の学部等別割合 (%表示)

この論文関連点数は論文数を直接に表しているのではなく、論文の著者として発表された論文数から得られた点数を表している。当初、学部等別論文数そのものを算出するため、総括表の First author 論文数、Corresponding author 論文数の項目からの算出を試みた。しかし、修士学生の First author 論文および author 名をアルファベット順に記載した論文の存在、また、明確に記載されていない総括表の存在等から正確な論文数の算出は困難であった。

9 - 3 - 2 学会関連の活動

全学集計した学会活動関連の総括表点数に占める各学部等の割合は、人文学部 3%、教育学部 6%、理学部 11%、医学部 54%、農学部 17%、黒潮圏 6%、学共施設 3%であった(図 - 12 ; 表 16 - 2、文末参照)。この集計点数も共同発表者としての学会発表を含めた値である。

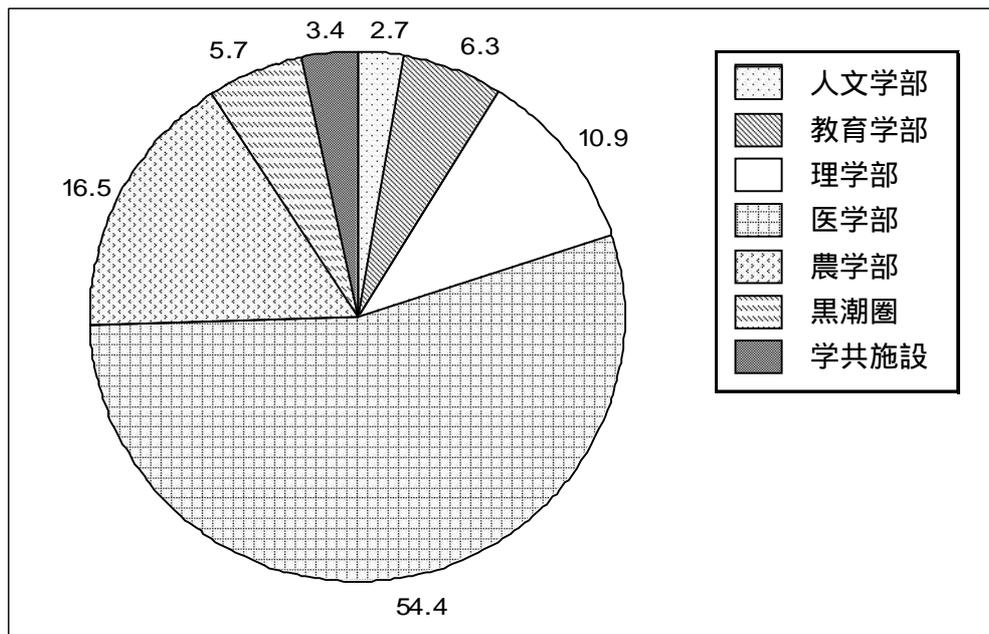


図 - 1 2 学会関連活動の学部等別割合 (%表示)

9 - 3 - 3 外部資金獲得活動

全学集計した外部資金獲得関連の総括表点数に占める各学部等の割合は、人文学部2%、教育学部3%、理学部17%、医学部51%、農学部16%、黒潮圏5%、学共施設6%であった(図 - 1 3 ; 表 1 6 - 2、文末参照)。この集計点数も代表、分担を含めた値である。

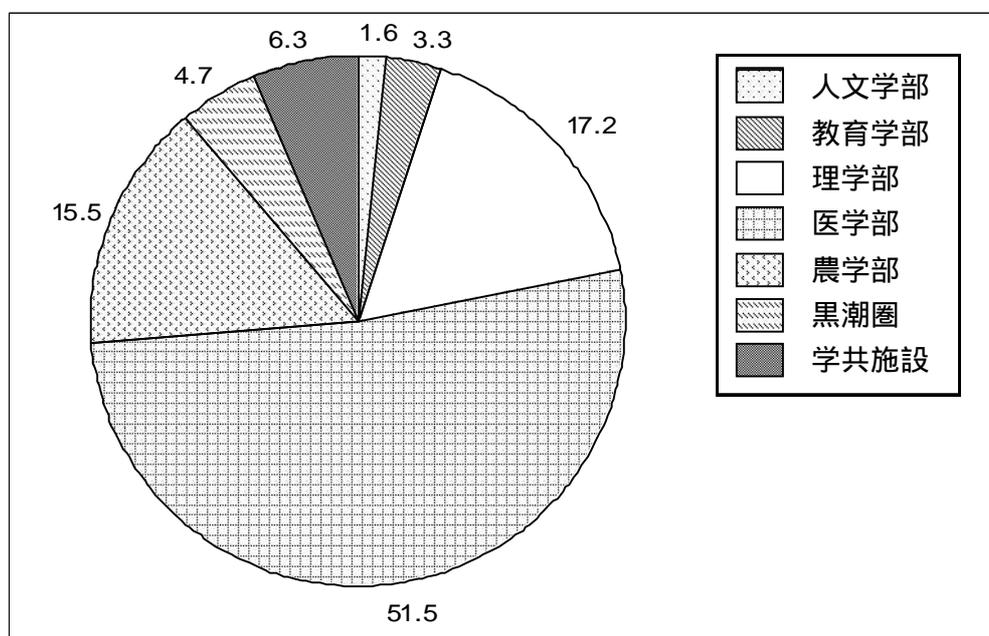


図 - 1 3 外部資金獲得活動の学部等別割合 (%表示)

9 - 4 社会貢献活動の学部等別割合

社会貢献活動は大きく2つの中項目〔社会貢献(国内) 国際交流〕に分類し、その配点割合は、社会貢献(国内)(56%) 国際交流(44%)である(表 - 6)

(1)社会貢献(国内)の小項目として、学外における教育活動(時間) 講演・研修(時間) 審議会活動(回数) 産学官連携(件数) ボランティア活動(件数) メディアによる啓発(件数) 鑑定(件数) 保健医療従事者への教育(件数) 審査員・審判活動(件数) 同窓会活動(件数) その他、(2)国際交流の小項目として、国際セミナー・シンポジウム開催(回数) 大学等との交流(回数) 在外研究(回数) 姉妹校との交流(回数) 留学生等の受け入れ(件数) UN・JICA・NGO活動(件数) 技術指導(件数) その他、を含めた。

9 - 4 - 1 社会貢献活動(国内)

全学集計した社会貢献関連の総括表点数に占める各学部等の割合は、人文学部5%、教育学部12%、理学部7%、医学部34%、農学部17%、黒潮圏4%、学共施設21%であった(図 - 14 ;表16 - 3、文末参照)

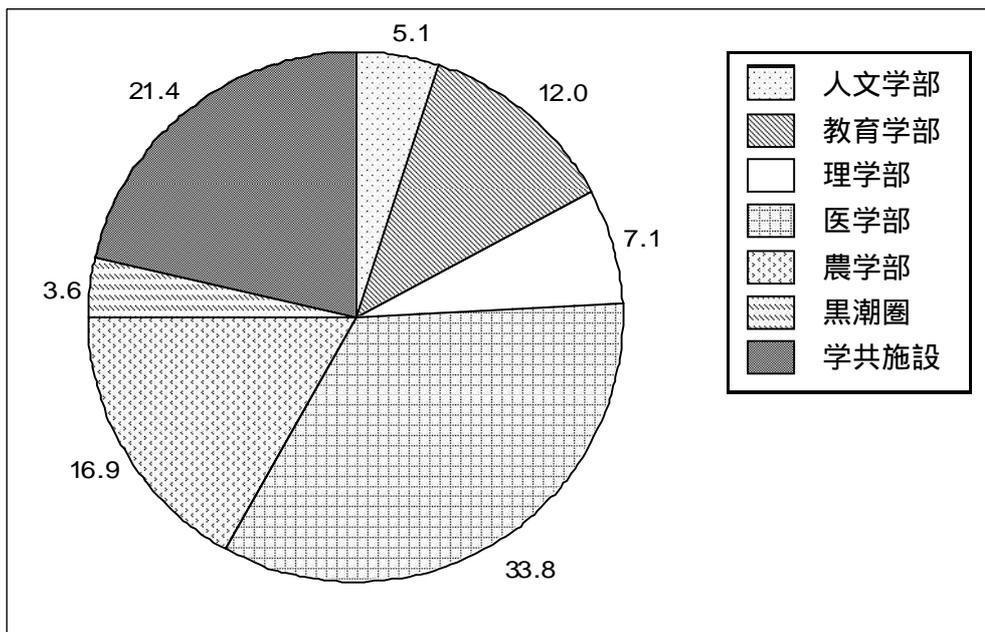


図 - 14 社会貢献(国内)活動の学部等別割合(%表示)

9 - 4 - 2 国際交流活動

全学集計した国際交流関連の総括表点数に占める各学部等の割合は、人文学部5%、教育学部5%、理学部13%、医学部37%、農学部27%、黒潮圏6%、学共施設7%であった(図 - 15 ;表16 - 3、文末参照)

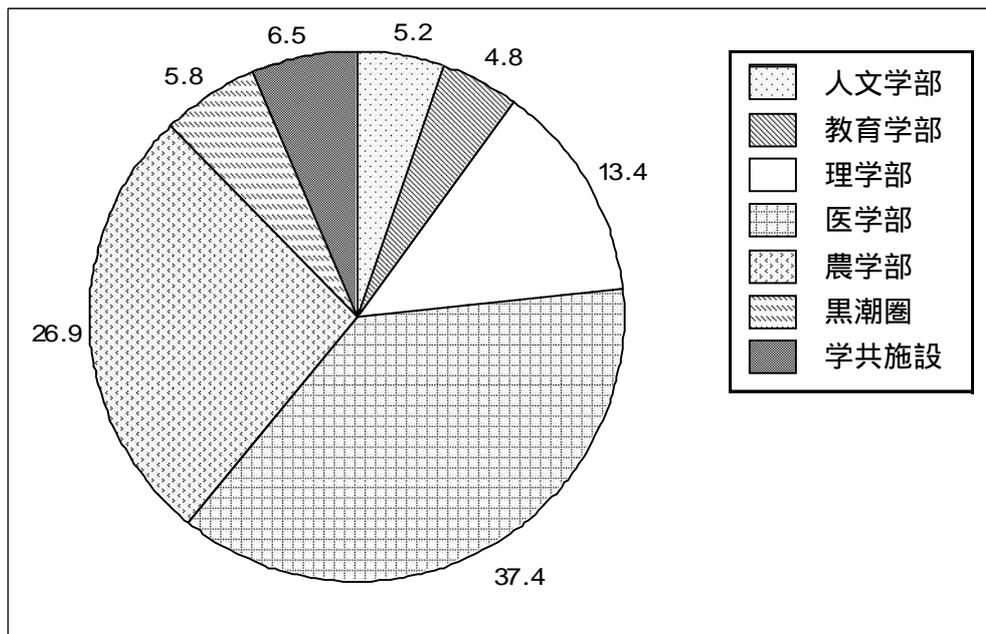


図 - 15 国際交流活動の学部等別割合 (%表示)

9 - 5 大学運営活動の学部等別割合

全学の大学運営活動に、学部長、附属施設長、委員長（全学、学部等）委員（全学、学部等）その他を含めた。大学運営活動には、各学部等の努力が直ちに総括表点数に反映しないがあえて集計した。全学集計した大学運営活動の総括表点数に各学部等が占める割合は、人文学部 11%、教育学部 17%、理学部 13%、医学部 32%、農学部 17%、黒潮圏 4%、学共施設 7%であった（図 - 16 ; 表 16 - 4、文末参照）

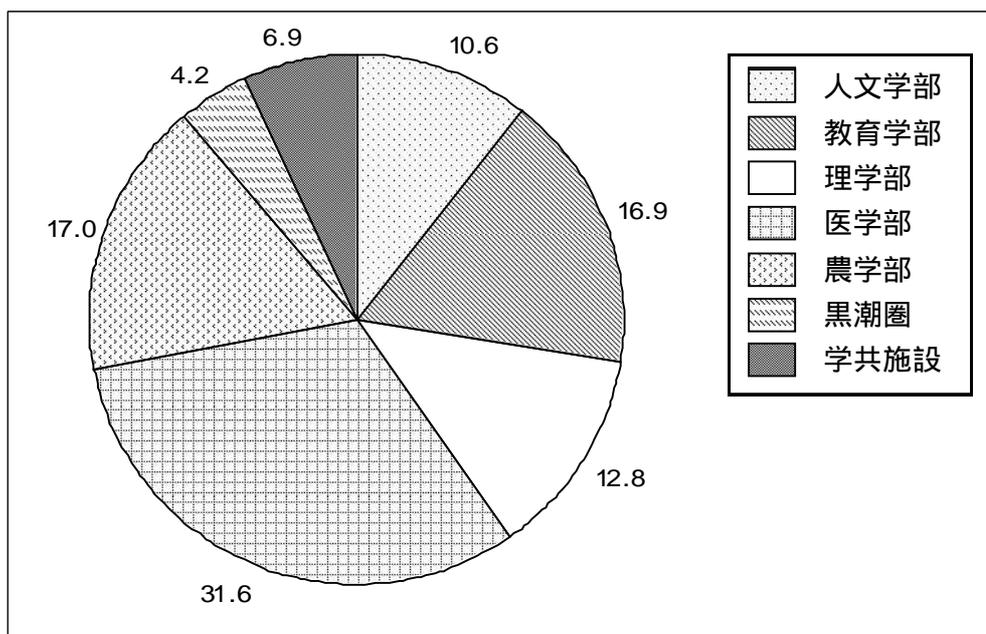


図 - 16 大学運営活動の学部等別割合 (%表示)

9 - 6 診療活動

診療活動は大きく5つの中項目（一般診療、時間外診療、特殊検査、講演会等、地域貢献等）に分類した。（1）一般診療の小項目には、診療時間、診療患者数、特殊患者診察数、難治症例数、紹介患者数、指導症例数、（2）時間外診療の小項目には、当直日数、時間外診療時間、（3）特殊検査の小項目には、内視鏡検査、放射線検査、その他、（4）講演会等の小項目には、臨床活動普及活動（回数）講演回数、臨床成果に関する学術活動（回数）（5）地域貢献活動の小項目には、医事紛争への対応（件数）地域病院への協力（件数）第三者評価への協力（件数）を含めた（表 - 6 文末掲載）。

全学集計した診療活動関連の総括表点数に占める学共施設（保健管理センター（3人））の割合は0.12%であった。診療活動関連の総括表点数に占める割合は、一般診療73%、時間外診療24%、特殊検査2%、講演会等0.8%、地域貢献活動0.8%であった（図 - 17；表 16 - 5、文末参照）。

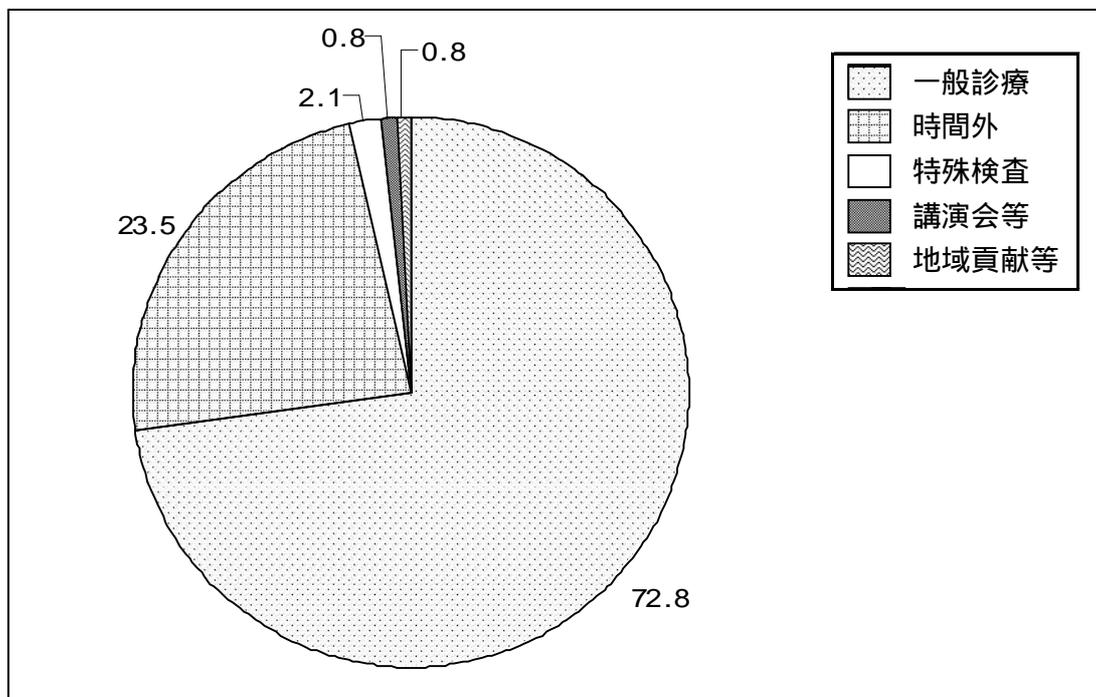


図 - 17 診療活動の項目別割合（%表示）

9 - 7 総括表の点数化について

今回、「総括表の点数化が教員の活動をどの程度反映したものであるのか」を検証する必要があった。そこで、各活動点数に占める学部等別割合を、総括表提出者の学部等別割合と比較し検討した。全学レベルで集計した総括表点数の学部等別割合が提出者の学部等別割合に近似した値であること、さらに、各中項目活動における学部等割合がある程度各学部等の実情を反映していると考えられることから、各素点を用いた総括表の点

数化（総件数×素点）は、各教員の活動量を捉える指標として有効であることが伺えた（図6～16参照）。

10 意見の申し立て

今回の試行にあたりアンケート調査を行った。アンケート-1は教員の総合的活動の自己評価書提出時の意見である（資料9）。アンケート-2は、「平成16年度試行的に行った教員の総合的活動自己評価に係る妥当性の検証結果総括表（活動量）点数化結果通知」に対する意見等である（資料10）。アンケート-1では、この自己評価システムの煩雑さに関するものが大半を占めていた。少数意見ではあるが、この自己評価システムの利点を指摘したものもあった。アンケート-2では、総括表の点数化及び素点に係るもの、自己評価に第三者による妥当性の検証を行うことへの疑問等があった。

11 次年度の本格実施に向けての改善すべき事項

現在、評価本部において、平成17年度の本格的実施に向けての改善事項を検討している。現時点における改善項目を以下に簡単にまとめた。

- (1) 今回の試行においては、研究業績での文系論文の素点を理系の2倍とし、文系学部等に人文学部、教育学部、生涯学習教育研究センター、留学生センター、大学教育創造センターを含めた。しかし、学部、部局レベルで画一的に分けることは現状を反映していないことから、平成17年度では各教員の申告により文系、理系を定めるシステムに改善する。
- (2) 今回、5学部1研究科に対応して作成した添付資料には多くの学部固有事項を含めたが、総括表ではそれらを「その他」として一括してまとめた。平成17年度では学部等の個性を反映させるため、総括表の項目設定を学部等の個性を反映するように改善する。
- (3) 今回の試行では、「質」に関する評価は行えなかった。今後、「学生による授業評価」、「論文のインパクトファクター」等の質を加味した評価システムへと改善する。
- (4) 外国人教師等のために英語の実施要領等を作成する。
- (5) WEB入力が可能な自己評価に関するシステムを構築する。

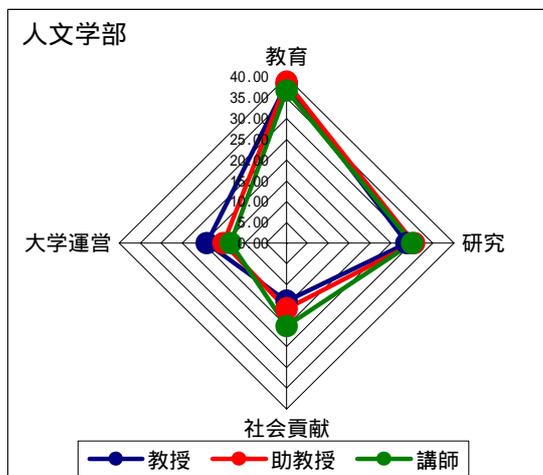
今後、多くの意見等を参考にしながら、より良い自己評価システムへと改良していく。

1 2 おわりに

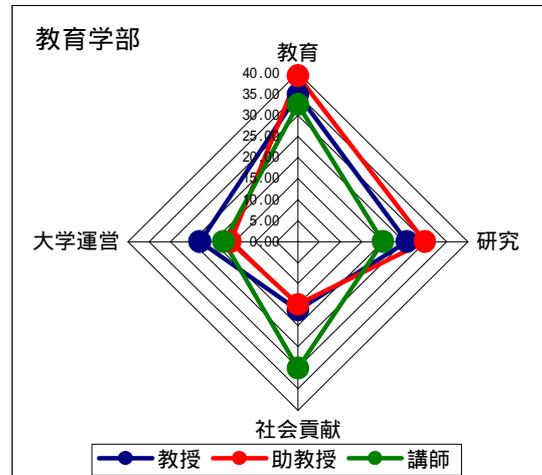
一般には、「評価」と「評定」は区別なく用いられているようだ。しかし、評価 (Evaluation) と評定 (Valuation) はそれぞれ異なる意味を示していると言われている。学生の成績を、試験を行い点数化することは「評定」といえる。一方、「評価」は、優れた所と劣っている所を見極め、優れた所をさらに伸ばし、劣っている所を改善しながら進化していくことを意味している。今回試行した「教員の総合的活動の自己評価」は、全学の教員の1人ひとりの順位付けを意図したものではなく、あくまで自らが自らの置かれた状況を判断し、より良い状態へと進化していくためのものがある。この自己評価システムをさらに良いものへと改良すると共に、本学がさらに発展する一助になることを願っている。

1 3 文末に掲載した図と表

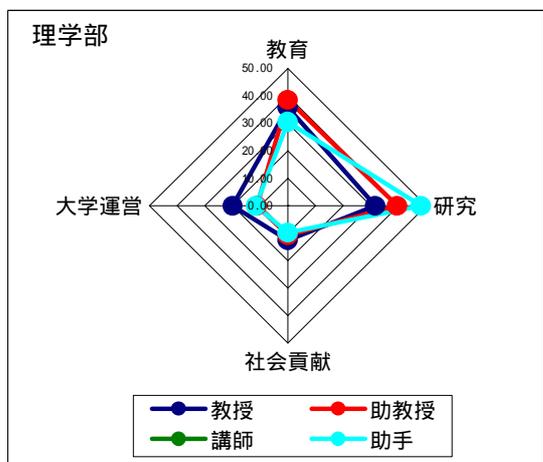
図 - 2 学部別 - 職階別の(自己申告)活動割合



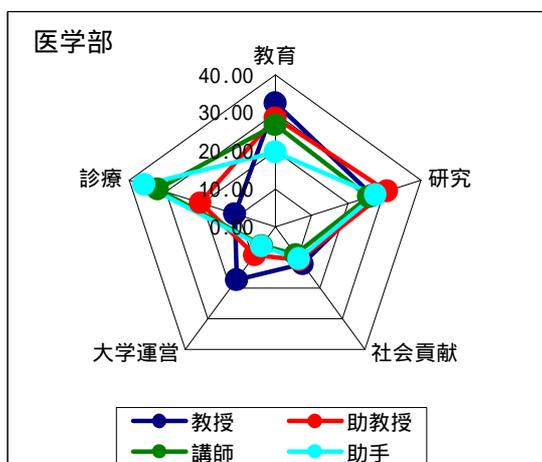
人文学部
(教授 31 人, 助教授 19 人, 講師 3 人)



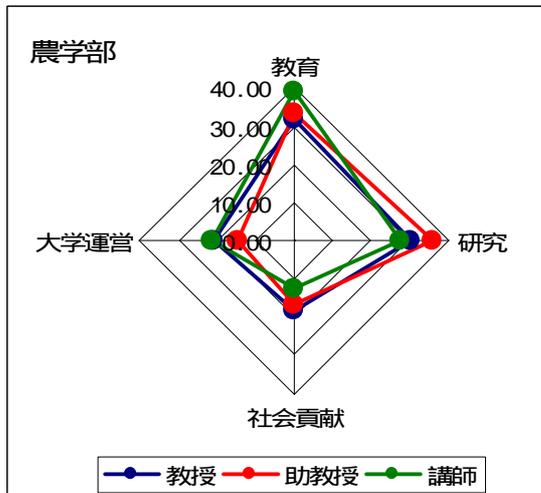
教育学部
(教授 43 人, 助教授 29 人, 講師 2 人)



理学部
(教授 34 人, 助教授 29 人, 助手 8 人)

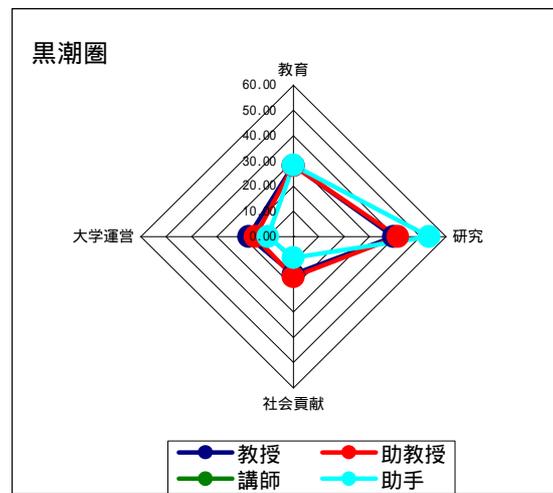


医学部
(教授 46 人, 助教授 37 人, 講師 34 人, 助手 119 人)



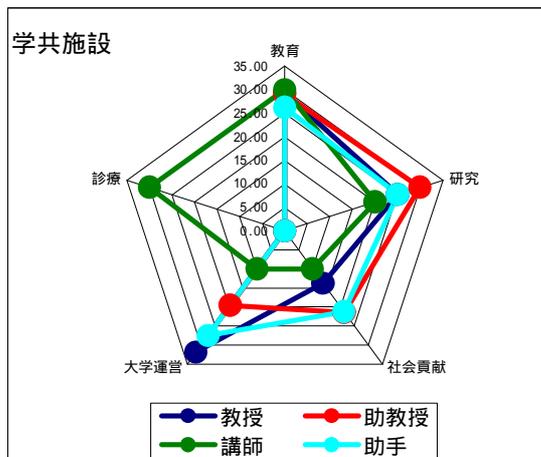
農学部

(教授 35 人 助教授 27 人 講師 4 人)



黒潮圏

(教授 8 人 助教授 5 人 助手 3 人)



学共施設

(教授 8 人 助教授 1 人 講師 2 人 助手 4 人)

表 - 6
教育、研究、社会貢献、大学運営、診療活動の点数化(総件数x素点)

大項目	中項目	小項目	総件数	素点	総件数x素点	項目別点数	%(項目別)	
教育活動	入試関連	問題出題の有無	件数	228	5.00	1140	3219.6	10.5
		採点の有無	件数	230	3.50	805		
		面接の有無	件数	264	1.40	370		
		試験分析、企画件数	件数	151	3.00	453		
		受験生獲得対応の有無	件数	164	2.00	328		
		その他(記述)	件数	62	2.00	124		
	講義	講義時間総数 (時間/年)	共通教育	13169	0.15	1975	15646.9	51.0
		学部、大学院	84947.5	0.15	12742			
		他学部、他大学	6196	0.15	929			
	学位審査	学位審査件数 (修士)	主査	145	2.00	290	10177.5	33.1
			副査	293	1.00	293		
		(博士)	主査	53	3.00	159		
			副査	139	1.50	209		
		学生指導件数	卒論(2年)	991	5.00	4955		
			修論(2年)	368	7.00	2576		
	博論(3-4年)	212	8.00	1696				
	その他	FD関連(企画の有無)	件数	37	1.50	56	1663.2	5.4
(参加の有無)		件数	245	0.10	25			
就職相談(件/年)		件数	1267	1.00	1267			
留学支援(件/年)		件数	201	1.00	201			
クラブ顧問の有無		件数	92	1.00	92			
その他(記述)		件数	116	0.20	23			
						30707.2	100.0	

大項目	中項目	小項目	総件数		素点		総件数x素点	項目別点数	%(項目別)
			文系	理系	素点(文系)	素点(理系)			
研究活動	論文等	著書	欧文	56	30	15	960	20709.0	69.5
			邦文	177	12	6	1626		
		総説	欧文	20	30	15	360		
			邦文	180	12	6	1272		
		原著論文	欧文	725	30	15	12705		
			邦文	258	12	6	2784		
		症例報告	欧文	51	12	6	306		
	邦文	102	3	1.5	156				
	その他の論文	その他	194	3	1.5	540			
	学会活動等	参加	1265	文理-共通	0.40	506	3771.6	12.7	
		発表	778	0.60	467				
		司会	319	0.80	255				
		国際参加	234	0.90	211				
		発表	211	1.50	317				
		司会	39	3.50	137				
		受賞	36	25.00	900				
		特許出願(公開)	67	5.00	335				
外部資金獲得	取得	9	30.00	270	5325.9	17.9			
	研究セミナー	185	1.20	222					
	その他(記述)	153	1.00	153					
外部資金獲得	科研	金額(単位:万円)	50635	0.05	2532	29806.5	100.0		
	採択数	178	0.40	71					
	応募数	397	0.25	99					
	共同研究	金額(単位:万円)	10060	0.03	302				
	委託研究、奨学寄附金	金額(単位:万円)	45087.8	0.03	1353				
	学長、学部長裁量経費	金額(単位:万円)	17315.3	0.03	519				
その他	金額(単位:万円)	14992.8	0.03	450					
						29806.5	100.0		

大項目	中項目	小項目	総件数	素点	総件数x素点	項目別点数	%(項目別)				
社会貢献活動	国内	学外における教育活動(時間/年)	時間	8266.5	0.20	1653	7384.0	56.3			
		講演、研修	件数	998	0.70	699					
		審議会活動	回数	764	0.70	535					
		産学官連携	件数	560	4.70	2632					
		ボランティア活動	件数	189	0.75	142					
		メディアによる啓発	件数	218	0.75	164					
		鑑定	件数	143	5.00	715					
		保健医療従事者への教育	件数	235	0.75	176					
		審査員、審判活動	回数	332	0.75	249					
		同窓会活動	回数	104	0.40	42					
		その他(記述)	件数	3152	0.12	378					
		国際交流	国際セミナー、シンポ	回数	119	9.00			1071	5724.2	43.7
			大学/学術組織との交流等	回数	220	6.00			1320		
	在外研究		回数	41	9.00	369					
	姉妹校との交流		回数	91	6.20	564					
	留学生/研究者の受け入れ(人/年)		件数	243	6.00	1458					
	UN, JICA, NGO		件数	33	6.00	198					
	技術指導		件数	71	9.00	639					
	その他(記述)	件数	70	1.50	105						
							13108.2	100.0			

大項目	中項目	小項目	総件数	素点	総件数x素点	項目別点数	%(項目別)
大学運営活動	大学運営等	学部長	6	70	420	14004.0	100.0
		附属施設長	25	35	875		
		委員長-全学	33	20	660		
		委員長-学部	146	15	2190		
		委員-全学	598.5	8	4788		
		委員-学部	1159	4	4636		
		その他(記述)	145	3	435		

大項目	中項目	小項目	総件数	素点	総件数X素点	項目別点数	%[項目別]
診療活動	一般診療	診療時間	192898	0.030	5786.94		
		診療患者数	273334	0.010	2733.34		
		特殊患者診療数	1466	0.040	58.64		
		難治症例	1731	0.040	69.24		
		紹介患者数	5109	0.030	153.27		
		指導症例数	225015	0.010	225.02	9026.4	72.8
	時間外診療	当直日数	4143	0.250	1035.75		
		時間外診療	37610	0.050	1880.50	2916.3	23.5
	特殊検査	特殊検査件数/年	1161	0.030	34.83		
		内視鏡	814	0.030	24.42		
		放射線 その他	13704	0.015	205.56	264.8	2.1
	講演会等	臨床活動普及活動	211	0.065	13.72		
		講演回数	221	0.200	44.20		
		臨床成果学術活動	448	0.080	35.84	93.8	0.8
	地域貢献等	医事紛争対応	18	1.400	25.20		
		地域病院への協力	3736	0.010	37.36		
		第三者評価への協力	76	0.550	41.80	104.4	0.8
						12405.6	100.0

表一七
素点の一覧表(講義時間1時間との比較)

教育	素点	時間換算 (授業相当)	研究		社会貢献		大学運営		診療活動		素点	時間換算 (授業相当)	時間換算 (授業相当)
			文系 (%)	理系	文系	理系	素点	時間換算 (授業相当)	素点	時間換算 (授業相当)			
問題出題の有無	5.00	33.3	30	15	書書	100.0	100.0	1.3	70	診療時間	0.030	466	0.200
採点の有無	3.50	23.3	12	6	邦文	40.0	40.0	4.7	35	診療患者数	0.010	233.3	0.067
面接の有無	1.40	9.3	30	15	邦文	100.0	100.0	4.7	20	診療患者数	0.040	133.3	0.267
試験分析、企画件数	3.00	20.0	12	6	邦文	40.0	40.0	31.3	15	特殊患者診療数	0.040	100.0	0.267
受験生獲得対成の有無	2.00	13.3	30	15	邦文	100.0	100.0	5.0	8	難治症例	0.030	53.3	0.200
その他(記述)	2.00	13.3	12	6	邦文	40.0	40.0	5.0	4	紹介患者数	0.010	26.7	0.067
講義時間総数 (時間/年)	0.15	1.0	12	6	邦文	40.0	40.0	5.0	3	指導症例数	0.010	20.0	1.667
共通教育	0.15	1.0	3	1.5	邦文	100.0	100.0	5.0	5.0	当直日数	0.050	5.0	0.333
学部、大学院	0.15	1.0	3	1.5	邦文	100.0	100.0	5.0	5.0	時間外診療	0.030	5.0	0.200
他学部、他大学	0.15	1.0	3	1.5	邦文	100.0	100.0	2.7	2.7	特殊検査件数/年	0.030	2.7	0.200
主査	2.00	13.3	0.40	0.20	総数	文系-共通	文系-共通	0.8	0.8	その他	0.015	0.8	0.100
副査	1.00	6.7	0.80	0.40	総数	2.7	2.7	6.0	6.0	臨床活動普及活動	0.065	6.0	0.433
(博士)	3.00	20.0	0.80	0.40	参加	4.0	4.0	9.00	9.00	講演回数	0.200	9.00	1.333
主査	1.50	10.0	0.90	0.45	発表	5.3	5.3	6.00	6.00	臨床成果学術活動	0.080	6.00	0.533
副査	5.00	33.3	0.90	0.45	司会	6.0	6.0	9.00	9.00	臨床競争対応	1.400	9.00	0.667
卒論(2年)	7.00	46.7	1.50	0.75	参加	23.3	23.3	6.20	6.20	地域病院への協力	0.010	6.20	0.467
修論(2年)	7.00	46.7	3.50	1.75	発表	166.7	166.7	6.00	6.00	第三者評価への協力	0.550	6.00	3.667
博論(3-4年)	8.00	53.3	25.00	12.50	司会	33.3	33.3	6.00	6.00				
FD関連(企画の有無)	1.50	10.0	5.00	2.50	件数	200.0	200.0	9.00	9.00				
(参加の有無)	0.10	0.7	30.00	15.00	件数	8.0	8.0	1.50	1.50				
就職相談(件/年)	1.00	6.7	1.20	0.60	件数	6.7	6.7	0.3	0.3				
留学支援(件/年)	1.00	6.7	1.00	0.50	件数	0.05	0.05	2.7	2.7				
クラブ顧問の有無	1.00	6.7	0.40	0.20	金額(万円)	0.25	0.25	1.7	1.7				
その他(記述)	0.20	1.3	0.03	0.015	採択数	0.03	0.03	0.2	0.2				
			0.03	0.015	応募数	0.03	0.03	0.2	0.2				
			0.03	0.015	金額(万円)	0.03	0.03	0.2	0.2				
			0.03	0.015	金額(万円)	0.03	0.03	0.2	0.2				
			0.03	0.015	金額(万円)	0.03	0.03	0.2	0.2				
			0.03	0.015	金額(万円)	0.03	0.03	0.2	0.2				

表 16 - 1

教育活動	人文学部		教育学部		理学部		医学部		農学部		黒潮圏		学共施設		素点		合計	
	件数等	点数	件数等	点数	件数等	点数	件数等	点数	件数等	点数	件数等	点数	件数等	点数	件数等	点数	件数等	点数
問題出題の有無	29	145.00	46	230.00	57	285.00	33	165.00	45	225.00	9	45.00	9	45.00	5.00	228	1140.00	
採点の有無	30	105.00	48	188.00	57	199.50	29	101.50	47	164.50	10	35.00	9	31.50	3.50	230	805.00	
面接の有無	39	54.60	40	56.00	52	72.80	66	92.40	50	70.00	11	15.40	6	8.40	1.40	264	369.60	
試験分析, 企画件数	17	51.00	43	129.00	35	105.00	15	45.00	7	21.00	8	24.00	26	78.00	3.00	151	453.00	
受験生獲得対応の有無	21	42.00	32	64.00	30	60.00	29	58.00	35	70.00	10	20.00	7	14.00	2.00	164	328.00	
その他(記述)	6	12.00	11	22.00	4	8.00	33	66.00	6	12.00	0	0.00	2	4.00	2.00	62	124.00	
計	142	409.60	220	669.00	235	730.30	205	527.30	190	562.50	48	139.40	59	180.90	1099	3219.60		
%		12.72%		20.78%		22.68%		16.40%		17.47%		4.33%		5.62%		100.00%		100.00%
講義時間総数 (時間/年)	3777	566.55	2262	339.30	1899	284.85	2057	308.55	2227	334.05	367.5	55.13	579.5	86.93	0.15	13169	1975.35	
共通教育 学部, 大学院 他学部, 他大学	8199	1229.85	14540	2181.00	8824	1323.60	23770	3565.50	26780	4017.00	1882	282.30	952.5	142.88	0.15	84947.5	12742.13	
計	973.5	146.03	1833	274.95	622	93.30	784	117.60	738	110.70	643	96.45	603.5	90.53	0.15	6197	929.55	
%	12949.5	1942.43	18635	2795.25	11345	1701.75	26611	3991.65	29745	4461.75	2892.5	433.88	2135.5	320.33	104314	15647.03		
学位審査件数(修士)	8	16.00	30	60.00	32	64.00	9	18.00	57	114.00	4	8.00	5	10.00	2.00	145	290.00	
(博士)	15	15.00	40	40.00	100	100.00	19	19.00	89	89.00	15	15.00	15	15.00	1.00	293	293.00	
主査	0	0.00	1	3.00	4	12.00	32	96.00	12	36.00	2	6.00	2	6.00	3.00	53	159.00	
副査	0	0.00	0	0.00	9	13.50	57	85.50	65	97.50	7	10.50	1	1.50	1.50	139	208.50	
学生指導件数	198	990.00	198	990.00	246	1230.00	37	185.00	225	1125.00	67	335.00	20	100.00	5.00	991	4855.00	
修論	16	112.00	27	189.00	112	784.00	30	210.00	140	980.00	24	168.00	19	133.00	7.00	368	2576.00	
博論	1	8.00	0	0.00	38	304.00	78	624.00	87	696.00	6	48.00	2	16.00	8.00	212	1696.00	
計	238	1141.00	296	1282.00	541	2507.50	262	1237.50	675	3137.50	125	590.50	64	281.50	2201	10177.50		
%		11.21%		12.60%		24.64%		12.16%		30.83%		2.77%		2.77%		100.00%		100.00%
FD関連(企画の有無)	5	7.50	6	9.00	4	6.00	6	9.00	10	15.00	0	0.00	6	9.00	1.50	37	55.50	
(参加の有無)	38	3.80	40	4.00	45	4.50	46	4.60	54	5.40	10	1.00	12	1.20	0.10	245	24.50	
就職相談(件/年)	169	169.00	178	178.00	204	204.00	236	236.00	377	377.00	75	75.00	28	28.00	1.00	1267	1267.00	
留学支援(件/年)	19	19.00	14	14.00	25	25.00	104	104.00	31	31.00	2	2.00	6	6.00	1.00	201	201.00	
クラブ顧問の有無	12	12.00	18	18.00	11	11.00	35	35.00	9	9.00	2	2.00	5	5.00	1.00	92	92.00	
その他(記述)	10	2.00	2	0.40	6	1.20	47	9.40	51	10.20	0	0.00	0	0.00	0.20	116	23.20	
計	253	213.30	258	223.40	295	251.70	474	398.00	532	447.60	89	80.00	57	49.20	1958	1663.20		
%		12.82%		13.43%		15.13%		23.93%		26.91%		4.81%		2.96%		100.00%		100.00%
合計	13582.5	3706.33	19409.00	4969.65	12416.00	5191.25	27552.00	6155.05	31142.00	8609.35	3154.50	1243.78	2315.50	831.93	109572	30707.33		

表16-2

研究	人文学部		教育学部		理学部		医学部		農学部		農学部		理工学部		素点		合計
	件数等	点数	件数等	点数	件数等	点数	件数等	点数	件数等	点数	件数等	点数	件数等	点数	文系	理系	
書	15	180.00	27	324.00	15	90.00	41	846.00	10	150.00	1	15.00	1	30.00	3000	15.00	60
総説	0	0.00	2	60.00	3	45.00	141	240.00	15	90.00	3	18.00	8	78.00	1200	6.00	224
原著論文	14	168.00	21	252.00	5	30.00	159	954.00	5	30.00	4	24.00	0	0.00	3000	15.00	22
症例報告	65	780.00	32	384.00	28	168.00	168	1008.00	42	252.00	25	1440.00	35	525.00	3000	15.00	786
その他の論文	1	3.00	0	0.00	1	6.00	50	300.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1200	6.00	361
計	180	2520	123	1566	207	2151	1211	11073	206	2032.5	72	553.5	81	813	3000	3.00	2080
%		12.17%		7.56%		10.39%		53.47%		9.81%		2.67%		3.93%		1.50%	100.00%
学会活動 国内	19	7.60	44	17.60	138	55.20	876	350.40	136	54.40	19	7.60	33	13.20	0.40	0.40	506
発表	39	23.40	43	25.80	72	43.20	475	285.00	92	55.20	34	20.40	23	13.80	0.60	0.60	468.8
国際	0	0.00	0	0.00	32	25.60	199	159.20	54	43.20	8	6.40	9	7.20	0.80	0.80	319
発表	4	6.00	15	22.50	22	33.00	177	196.50	12	10.80	6	9.00	5	7.50	0.90	0.90	210.6
学会	11	38.50	2	7.00	9	31.50	13	45.50	3	10.50	1	3.50	0	0.00	3.50	3.50	39
特許出願(公開)	0	0.00	4	100.00	2	50.00	24	600.00	4	100.00	1	25.00	1	25.00	25.00	25.00	36
取得	0	0.00	1	5.00	17	85.00	9	45.00	15	75.00	22	110.00	3	15.00	5.00	5.00	900
研究セミナー	11	13.20	5	6.00	1	30.00	2	60.00	6	180.00	0	0.00	0	0.00	30.00	30.00	67
その他(記述)	8	8.00	45	450.00	4	4.00	35	35.00	28	28.00	7	7.00	26	26.00	1.00	1.00	222
計	98	101.50	170	237.0	351	412.70	2038	2052.30	398	623.10	121	216.50	120	127.80	1.00	1.00	153
%		2.69%		6.30%		10.94%		54.41%		16.52%		5.74%		3.39%		0.40%	100.00%
科研	850	42.50	2187	109.35	8157	407.85	27788	1389.40	5673	283.65	2700	135.00	3280	164.00	0.05	0.05	50635
採択数	7	2.80	21	8.40	30	12.00	86	34.40	19	7.60	9	3.60	6	2.40	0.40	0.40	178
応募数	13	3.25	37	9.25	68	17.00	181	45.25	66	16.50	18	4.50	16	4.00	0.25	0.25	399
共同研究	160	4.80	467	14.01	1744	52.32	5320	159.60	1813	54.39	78	2.34	478	14.34	0.03	0.03	10060
委託研究、奨学寄附金	130	3.90	465	13.95	3111.5	93.35	27494	824.82	9719.7	291.59	2165	64.95	2002.6	60.08	0.03	0.03	45067.8
学長、学部長、専任職員	560	16.80	696	20.88	4410	132.30	3578	107.34	4505	135.15	1256.3	37.69	2310	69.30	0.03	0.03	1352.634
その他	300	9.00	55	1.65	6643	199.29	6017.8	180.53	1237	37.11	100	3.00	640	19.20	0.03	0.03	17315.3
計	2020	83.05	3928	177.49	24163.5	914.105	70464.8	2741.344	23032.7	895.991	6326.3	251.079	8732.6	333.318	1.00	1.00	53263.77
%		1.96%		3.33%		17.16%		51.47%		15.51%		4.71%		6.26%		0.00%	100.00%
合計	2298	2704.55	4221.00	1981.19	24721.50	3477.805	73713.80	15866.644	23636.70	3481.591	6519.30	1021.079	8933.60	1274.118			144043.90
																	29806.977

表 16 - 3

社会貢献	学外における教育活動(時間/年)	人文学部		教育学部		理学部		医学部		農学部		黒潮圏		学共施設		素点		総計			
		件数等	点数	件数等	点数	件数等	点数	件数等	点数	件数等	点数	件数等	点数	件数等	点数	件数等	点数	件数等	点数	件数等	点数
国内	時間 回数 講演、研修 件数 審議会活動 産学官連携 件数 ボランティア活動 件数 メディアによる啓発 件数 鑑定活動 件数 保健医療従事者教育活動 審査員、審判活動 回数 回窓会活動 回数 その他(記述)	916 58 115 8 15 10 1 0 6 19 10 1158	18320 4060 8050 3760 1125 750 500 0 450 760 120 37895	1925.5 254 103 16 50 41 1 38 85 19 32 2564.5	395.10 177.80 72.10 75.20 37.50 30.75 5.00 28.50 63.75 7.60 1.20 887.14	777 59 39.20 35 2 9 15 0 46 10 27 1036	155.40 41.30 39.20 164.50 1.50 6.75 75.00 0 0 34.50 4.00 3.24 525.39	3004 419 165 51 63 69 109 193 122 23 2985 7203	600.80 293.30 115.50 239.70 47.25 51.75 545.00 144.75 91.50 9.20 388.20 2496.95	1076.5 121 184 135 43 55 12 0 40 27 1762.5	215.30 84.70 128.80 634.50 32.25 41.25 60.00 0 30.00 10.80 8.28 1245.88	237 49 64 17 11 17 5 3 16 0 0 419	47.40 34.30 44.80 79.90 8.25 12.75 25.00 2.25 12.00 0 0 266.65	330.5 38 77 298 5 17 0 1 17 6 29 818.5	66.10 26.60 53.90 1400.60 3.75 12.75 0 0 12.75 2.40 3.48 1583.08	0.20 0.70 0.70 4.70 0.75 0.75 5.00 0.75 0.75 0.40 0.12 3.61%	8266.5 998 764 560 189 218 143 235 332 104 3152 14961.5	1663.30 698.6 534.8 2632 141.75 163.5 71.5 176.25 249 41.6 378.24 7384.04	100.00%	119 220 41 91 243 33 71 888	1071 1320 369 564.2 1458 198 639 5724.2
国際交流	国際セミナー、シンポジウム / 学術組織との交流等 在外研究 姉妹校との交流 留学生 / 研究者の受け入れ(人/年) UN, JICA, NGO 技術指導 その他(記述)	6 7 5 9 15 1 0 4 47	5400 4200 4500 5580 9000 600 0 600 29880	7 10 1 3 13 0 3 13 50	6300 6000 900 1860 7800 0 2700 1950 27510	23 32 9 10 29 0 4 8 115	207.00 192.00 81.00 62.00 174.00 0 36.00 12.00 764.00	52 77 13 40 103 11 15 19 330	468.00 462.00 117.00 248.00 618.00 66.00 135.00 28.50 2142.50	12 71 8 22 53 16 39 20 241	108.00 426.00 72.00 136.40 318.00 96.00 351.00 30.00 1537.40	10 9 4 2 11 2 7 0 45	90.00 54.00 36.00 12.40 66.00 12.00 63.00 0 333.40	9 14 1 5 19 3 6 0 60	81.00 84.00 9.00 31.00 114.00 18.00 27.00 9.00 373.00	9.00 6.00 9.00 6.20 6.00 6.00 9.00 1.50 6.52%	119 220 41 91 243 33 71 888	1071 1320 369 564.2 1458 198 639 5724.2			
合計		1205	6777.5	2674.50	1162.24	1151.00	1289.39	7533.00	4639.45	2003.50	2783.28	464.00	600.05	878.50	1956.08		15849.5	13108.2			

表 16 - 4

大学運営	人文学部		教育学部		理学部		医学部		農学部		黒潮圏		学共施設		素点		合計	
	件数等	点数	件数等	点数	件数等	点数	件数等	点数	件数等	点数	件数等	点数	件数等	点数	件数等	点数	件数等	点数
学部長	1	70.00	1	70.00	1	70.00	1	70.00	1	70.00	1	70.00	0	0.00	70.00	6	420	
附属施設長	1	35.00	7	245.00	4	140.00	5	175.00	4	140.00	0	0.00	4	140.00	35.00	25	875	
委員長-全学	5	100.00	1	20.00	9	180.00	4	80.00	9	180.00	0	0.00	5	100.00	20.00	33	660	
委員長-学部	16	240.00	36	540.00	14	210.00	42	630.00	29	435.00	7	105.00	2	30.00	15.00	146	2190	
委員-全学	73	584.00	97	776.00	91	728.00	136	1088.00	110	880.00	32	256.00	60	480.00	8.00	599	4792	
委員-学部	107	428.00	169	676.00	104	416.00	566	2224.00	149	596.00	39	156.00	35	140.00	4.00	1159	4636	
その他(記述)	9	27.00	14	42.00	16	48.00	51	153.00	27	81.00	2	6.00	26	78.00	3.00	145	435	
計	212	1484.00	325	2369.00	239	1792.00	795	4420.00	329	2382.00	81	593.00	132	968.00	3.00	2113	14008	
%		10.59%		16.91%		12.79%		31.55%		17.00%		4.23%		6.91%			100.00%	

表16 - 5

診療活動			件数	素点	点数
1. 一般診療	診療時間	時間 / 年	192898	0.030	5787
	診療患者数	人 / 年	273334	0.010	2733
	特殊患者診療数		1466	0.040	59
	難治症例		1731	0.040	69
	紹介患者数		5109	0.030	153
	指導症例数		22502	0.010	225
	計		497040		9026
	%				72.76%
2. 時間外診療	当直日数	回数 / 年	4143	0.250	1036
	時間外診療	時間 / 年	37610	0.050	1881
	計		41753		2916
	%				23.51%
3. 特殊検査	特殊検査件数	内視鏡	1161	0.030	35
		放射線	814	0.030	24
		その他(記述件数)	13704	0.015	206
	計		15679		265
%				2.13%	
4. 講演会等	臨床活動普及活動		211	0.065	14
	講演回数		221	0.200	44
	臨床成果学術活動		448	0.080	36
	計		880		94
	%				0.76%
5. 地域貢献活動等	医事紛争対応		18	1.400	25
	地域病院への協力		3736	0.010	37
	第三者評価への協力	件数	76	0.550	42
	計		3830		104
	%				0.84%
合計			559182		12406